



⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ基礎演習Ⅱ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第2回)(芸術学部 第1回) ● データサイエンスやAIとはどういう分野なのか、なぜ社会の関心を集めているのか ● 社会におけるデータ・AIの利活用例を幅広く学ぶことで、社会で起きている変化を知り、データサイエンスやAIを学ぶことの意義を理解することを目標とする ● 特にAIを活用した新しいビジネスやサービスは、複数の技術が組み合わせられて実現していることに注目する
	1-6 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第7回)(芸術学部 第6回) ● データサイエンスの最先端ではどのような研究開発が行われているのか、いくつか先端的な技術を紹介する ● データ・AI利活用における新技術と最新動向を知ることを目標とする
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第3回)(芸術学部 第2回) ● どういうデータがデータサイエンスでは用いられるのか ● 代表的なデータをいくつか見ていくことで、どういったデータが集められ、どう活用されているかを知ることを目標とする
	1-3 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第4回)(芸術学部 第3回) ● データサイエンスやAIはどのように活用されているのか ● いくつかの例を見ることで、さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知ることを目標とする
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第5回)(芸術学部 第4回) ● データサイエンスやAI利活用の現場ではどういった技術が用いられるのか ● 基本的なものを見ていくことで、データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知ることを目標とする
	1-5 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第6回)(芸術学部 第5回) ● データサイエンティストの仕事の流れとは具体的にどのようなものなのか ● データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例を簡単に紹介する ● データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知ることを目標とする

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第11回) (芸術学部 第10回) ● データやAIは、強力な道具であるだけに、使い方を誤ると人間や社会に大きなダメージを与えるおそれがある ● データやAIを使うにあたり最低限気をつけるべきことについて学ぶ
	3-2	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第12回) (芸術学部 第11回) ● 3-1の具体例として、データやAIにまつわる基本的な倫理、合意事項について学ぶ ● そして、データを守ること、およびそれが破られて起こった事例について学ぶ
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第8回) (芸術学部 第7回) ● データを要約したり可視化したりする様々な手法について学ぶことで、グラフや統計情報の読み方を学ぶ ● 起きている事象の背景や意味合いを理解することを目標とする ● これらの情報を読む上で注意すべきいくつかの点についても学ぶ ● データを正しく読む上では、データがどのような背景から得られたものなのかを正しく理解することも重要であることを知る
	2-2	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第9回) (芸術学部 第8回) ● データについて相手に説明するために必要な方法として、グラフによる可視化とデータの比較方法等について学ぶ ● グラフにはさまざまな種類があり、それぞれの特徴やどのような時に使用するかについて学び、適切な可視化方法を選択して他者に説明できることを目標とする ● データの比較方法として、条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテストの3つについて学ぶ
	2-3	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(文学部 第10回) (芸術学部 第9回) ● データを解析するためのツールの一つであるスプレッドシートを紹介し、和や平均の計算などの基本的な使い方を学ぶ ● データを扱うファイル形式としてよく用いられるcsvファイルについて紹介し、スプレッドシートを用いて小規模データ(数百件~数千件レベル)を集計・加工できることを目標とする

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解できる。具体的な修得事項は下記の3点である。

1. 社会におけるデータやAI活用およびその留意事項等についての理解、
2. データを扱うために必要となる基本的な技術の理解、
3. 基本的なデータの記述とデータからの情報抽出をする能力



⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ基礎演習Ⅱ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第2回)(栄養学部 第1回) ● データサイエンスやAIとはどういう分野なのか、なぜ社会の関心を集めているのか ● 社会におけるデータ・AIの利活用例を幅広く学ぶことで、社会で起きている変化を知り、データサイエンスやAIを学ぶことの意義を理解することを目標とする ● 特にAIを活用した新しいビジネスやサービスは、複数の技術が組み合わせられて実現していることに注目する
	1-6 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第7回)(栄養学部 第1回・第12回) ● データサイエンスの最先端ではどのような研究開発が行われているのか、いくつか先端的な技術を紹介する ● データ・AI利活用における新技術と最新動向を知ることを目標とする
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第3回)(栄養学部 第3回・第8回) ● どういうデータがデータサイエンスでは用いられるのか ● 代表的なデータをいくつか見ていくことで、どういったデータが集められ、どう活用されているかを知ることを目標とする
	1-3 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第4回)(栄養学部 第2回・第9,10回) ● データサイエンスやAIはどのように活用されているのか ● いくつかの例を見ることで、さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知ることを目標とする
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第5回)(栄養学部 第4回) ● データサイエンスやAI利活用の現場ではどういった技術が用いられるのか ● 基本的なものを見ていくことで、データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知ることを目標とする
	1-5 「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第6回)(栄養学部 第10回) ● データサイエンティストの仕事の流れとは具体的にどのようなものなのか ● データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例を簡単に紹介する ● データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知ることを目標とする

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第11回)(栄養学部 第1回) ● データやAIは、強力な道具であるだけに、使い方を誤ると人間や社会に大きなダメージを与えるおそれがある ● データやAIを使うにあたり最低限気をつけるべきことについて学ぶ
	3-2	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第12回)(栄養学部 第9回) ● 3-1の具体例として、データやAIにまつわる基本的な倫理、合意事項について学ぶ ● そして、データを守ること、およびそれが破られて起こった事例について学ぶ
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第8回)(栄養学部 第6,7回・第10,11回) ● データを要約したり可視化したりする様々な手法について学ぶことで、グラフや統計情報の読み方を学ぶ ● 起きている事象の背景や意味合いを理解することを目標とする ● これらの情報を読む上で注意すべきいくつかの点についても学ぶ ● データを正しく読む上では、データがどのような背景から得られたものなのかを正しく理解することも重要であることを知る
	2-2	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部・栄養学部 第9回) ● データについて相手に説明するために必要な方法として、グラフによる可視化とデータの比較方法等について学ぶ ● グラフにはさまざまな種類があり、それぞれの特徴やどのような時に使用するかについて学び、適切な可視化方法を選択して他者に説明できることを目標とする ● データの比較方法として、条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテストの3つについて学ぶ
	2-3	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(スポーツ科学部 第10回)(栄養学部 第12,13回) ● データを解析するためのツールの一つであるスプレッドシートを紹介し、和や平均の計算などの基本的な使い方を学ぶ ● データを扱うファイル形式としてよく用いられるcsvファイルについて紹介し、スプレッドシートを用いて小規模データ(数百件~数千件レベル)を集計・加工できることを目標とする

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解できる。具体的な修得事項は下記の3点である。

1. 社会におけるデータやAI活用およびその留意事項等についての理解、
2. データを扱うために必要となる基本的な技術の理解、
3. 基本的なデータの記述とデータからの情報抽出をする能力



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ基礎演習Ⅱa	1	○	○								
コンピュータ基礎演習Ⅱb	1	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(第1回) ● データサイエンスやAIとはどういう分野なのか、なぜ社会の関心を集めているのか ● 社会におけるデータ・AIの活用事例を幅広く学ぶことで、社会で起きている変化を知り、データサイエンスやAIを学ぶことの意義を理解することを目標とする ● 特にAIを活用した新しいビジネスやサービスは、複数の技術が組み合わせられて実現していることに注目する
	1-6 「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(第6回) ● データサイエンスの最先端ではどのような研究開発が行われているのか、いくつか先端的な技術を紹介する ● データ・AI活用における新技術と最新動向を知ることが目標とする
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(第2回) ● どういうデータがデータサイエンスでは用いられるのか ● 代表的なデータをいくつか見ていくことで、どういったデータが集められ、どう活用されているかを知ることが目標とする
	1-3 「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(第3回) ● データサイエンスやAIはどのように活用されているのか ● いくつかの例を見ることで、さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知ることを目標とする
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(第4回) ● データサイエンスやAI活用の現場ではどういった技術が用いられるのか ● 基本的なものを見ていくことで、データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知ることが目標とする
	1-5 「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(第5回) ● データサイエンティストの仕事の流れとは具体的にどのようなものなのか ● データサイエンスのサイクルの例として映画制作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を簡単に紹介する ● データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知ることが目標とする

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「コンピュータ基礎演習 II b」(第3回) ● データやAIは、強力な道具であるだけに、使い方を誤ると人間や社会に大きなダメージを与えるおそれがある ● データやAIを使うにあたり最低限気をつけるべきことについて学ぶ
	3-2	「コンピュータ基礎演習 II b」(第4回) ● 3-1の具体例として、データやAIにまつわる基本的な倫理、合意事項について学ぶ ● そして、データを守ること、およびそれが破られて起こった事例について学ぶ
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「コンピュータ基礎演習 II a」(第7回) ● データを要約したり可視化したりする様々な手法について学ぶことで、グラフや統計情報の読み方を学ぶ ● 起きている事象の背景や意味合いを理解することを目標とする ● これらの情報を読む上で注意すべきいくつかの点についても学ぶ ● データを正しく読む上では、データがどのような背景から得られたものなのかを正しく理解することも重要であることを知る
	2-2	「コンピュータ基礎演習 II b」(第1回) ● データについて相手に説明するために必要な方法として、グラフによる可視化とデータの比較方法等について学ぶ ● グラフにはさまざまな種類があり、それぞれの特徴やどのような時に使用するかについて学び、適切な可視化方法を選択して他者に説明できることを目標とする ● データの比較方法として、条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテストの3つについて学ぶ
	2-3	「コンピュータ基礎演習 II b」(第2回) ● データを解析するためのツールの一つであるスプレッドシートを紹介し、和や平均の計算などの基本的な使い方を学ぶ ● データを扱うファイル形式としてよく用いられるcsvファイルについて紹介し、スプレッドシートを用いて小規模データ(数百件~数千件レベル)を集計・加工できることを目標とする

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解できる。具体的な修得事項は下記の3点である。

1. 社会におけるデータやAI活用およびその留意事項等についての理解、2. データを扱うために必要となる基本的な技術の理解、3. 基本的なデータの記述とデータからの情報抽出をする能力



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ICT活用教育概論	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	「ICT活用教育概論」(第1回) ● データサイエンスやAIとはどういう分野なのか、なぜ社会の関心を集めているのか ● 社会におけるデータ・AIの活用事例を幅広く学ぶことで、社会で起きている変化を知り、データサイエンスやAIを学ぶことの意義を理解することを目標とする ● 特にAIを活用した新しいビジネスやサービスは、複数の技術が組み合わせられて実現していることに注目する
	1-6	「ICT活用教育概論」(第6回) ● データサイエンスの最先端ではどのような研究開発が行われているのか、いくつか先端的な技術を紹介する ● データ・AI活用における新技術と最新動向を知ることが目標とする
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲にわたっており、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	「ICT活用教育概論」(第2回) ● どういうデータがデータサイエンスでは用いられるのか ● 代表的なデータをいくつか見ていくことで、どういったデータが集められ、どう活用されているかを知ることが目標とする
	1-3	「ICT活用教育概論」(第3回) ● データサイエンスやAIはどのように活用されているのか ● いくつかの例を見ることで、さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知ることを目標とする
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「ICT活用教育概論」(第4回) ● データサイエンスやAI利活用の現場ではどういった技術が用いられるのか ● 基本的なものを見ていくことで、データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知ることが目標とする
	1-5	「ICT活用教育概論」(第5回) ● データサイエンティストの仕事の流れとは具体的にどのようなものなのか ● データサイエンスのサイクルの例として映画製作、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例を簡単に紹介する ● データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知ることが目標とする

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<p>「ICT活用教育概論」(第14回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データやAIは、強力な道具であるだけに、使い方を誤ると人間や社会に大きなダメージを与えるおそれがある</li> <li>● データやAIを使うにあたり最低限気をつけるべきことについて学ぶ</li> </ul>
	3-2	<p>「ICT活用教育概論」(第15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3-1の具体例として、データやAIにまつわる基本的な倫理、合意事項について学ぶ</li> <li>● そして、データを守ること、およびそれが破られて起こった事例について学ぶ</li> </ul>
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<p>「ICT活用教育概論」(第7回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データを要約したり可視化したりする様々な手法について学ぶことで、グラフや統計情報の読み方を学ぶ</li> <li>● 起きている事象の背景や意味合いを理解することを目標とする</li> <li>● これらの情報を読む上で注意すべきいくつかの点についても学ぶ</li> <li>● データを正しく読む上では、データがどのような背景から得られたものなのかを正しく理解することも重要であることを知る</li> </ul>
	2-2	<p>「ICT活用教育概論」(第8回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データについて相手に説明するために必要な方法として、グラフによる可視化とデータの比較方法等について学ぶ</li> <li>● グラフにはさまざまな種類があり、それぞれの特徴やどのような時に使用するかについて学び、適切な可視化方法を選択して他者に説明できることを目標とする</li> <li>● データの比較方法として、条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテストの3つについて学ぶ</li> </ul>
	2-3	<p>「ICT活用教育概論」(第9回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● データを解析するためのツールの一つであるスプレッドシートを紹介し、和や平均の計算などの基本的な使い方を学ぶ</li> <li>● データを扱うファイル形式としてよく用いられるcsvファイルについて紹介し、スプレッドシートを用いて小規模データ(数百件~数千件レベル)を集計・加工できることを目標とする</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解できる。具体的な修得事項は下記の3点である。

1. 社会におけるデータやAI活用およびその留意事項等についての理解、2. データを扱うために必要となる基本的な技術の理解、3. 基本的なデータの記述とデータからの情報抽出をする能力

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
文学部	1,012	180	926	188	95	93	176	88	88	0			0			0			0			0			0			0			0			188	20%						
教育学部	72	70	70	70	30	40	67	29	38	0			0			0			0			0			0			0			0			70	100%						
経済学部	518	180	470	200	171	29	154	128	26	0			0			0			0			0			0			0			200	43%									
経済情報学部	229	70	210	73	70	3	69	66	3	0			0			0			0			0			0			0			73	35%									
芸術学部	322	70	284	72	27	45	68	27	41	0			0			0			0			0			0			0			73	35%									
スポーツ科学部	341	150	300	152	118	34	142	109	33	0			0			0			0			0			0			0			72	25%									
栄養学部	167	80	160	10	4	6	10	4	6	0			0			0			0			0			0			0			152	51%									
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			10	6%						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合計	2,661	800	2,420	765	515	250	686	451	235	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	838	35%						

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人

② プログラムの授業を教えている教員数  人

③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的  
 本学学生が、数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーを修得し、データの利活用により社会の課題の発見や解決する力を育成することを目的に、全学的な数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施する。本教育プログラムの実施にあたっては、学長・副学長の下、全学的な組織である全学教務委員会にて企画・運用および学修成果等を元に自己点検・評価を行うこととする。本プログラムの教育内容の改善や教育課程の編成について定期的に各学部から報告・提案を受け審議するとともに、その運用に関わる全学LMSの整備等に関しては本プログラムが円滑に実施されるよう全学情報システム運用委員会、総務部情報システム室、教務部と必要に応じて連携する体制を敷いている。

⑦ 具体的な構成員  
 学長：秋山 稔 教授  
 副学長/全学教務委員長：水洞 幸夫 教授  
 文学部長/文学部教務委員長：薮 際子 教授  
 教育学部教務委員長：笠間 弘美 教授  
 経済学部長/経済学部教務委員長：豊田 欣吾 教授  
 経済情報学部教務委員長：藤本 祥二 教授  
 芸術学部長/芸術学部教務委員長：飯田 栄治 教授  
 スポーツ科学部教務委員長：外山 寛 教授  
 栄養学部教務委員長：七尾 由美子 教授  
 短期大学教学部長：河内 久美子 教授

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	35%	令和5年度予定	60%	令和6年度予定	80%
令和7年度予定	90%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	2,420

具体的な計画

本学の数理データサイエンスAI教育プログラムを構成する科目のうち、令和4年度以前までに必修科目とされていたのは文学部・芸術学部における「コンピュータ基礎演習Ⅱ」、教育学部における「ICT活用教育概論」に限られていた。このことから収容定員に対する履修率が35%となっている。これまで選択科目であったスポーツ科学部、栄養学部における「コンピュータ基礎演習Ⅱ」、経済学部、経済情報学部における「コンピュータ基礎演習Ⅱa」「コンピュータ基礎演習Ⅱb」を令和5年度から必修科目とすることとした。これを受け、本プログラムの対象科目全てが必修科目となり、原則として令和5年度以降の入学生数が履修者数となるため、収容定員に対する履修率の向上を見込んでいる。これに従い本プログラムを実施していくことで、年度を経る度に段階的に履修率は向上し、令和7年度には1～3年生において100%(全学年において90%)に達し、全科目が必修となった際の履修者が4年生となる令和8年度に履修率は100%となるよう計画している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

⑧に記載の通り、本学の数理データサイエンスAI教育プログラムを構成する科目の全てが必修科目として設定されたことから、今後は全学部・学科において卒業要件として全員履修することが前提となった。令和5年度以降の入学生については原則、1年次後期での履修率が100%となる見込みである。現状においては、本学が実施しているBYODによる1人1端末で受講することを基本としているが、状況に応じてオンライン授業の併用も可能としている。また、学生端末が故障等の理由で使用できなくなった場合には、教室に備えられているコンピュータを使用するほか、貸し出し用のノートパソコンを活用し、履修者の学びを支援する体制となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

⑧⑨に記載の通り、本学の数理データサイエンスAI教育プログラムを構成する科目の全てが必修科目として設定されたことから、今後は全学部・学科において卒業要件として全員履修することが前提となった。令和5年度以降の入学生については原則、1年次後期での履修率が100%となる見込みである。入学直後に毎年度実施される入学生ガイダンスにおいて本プログラムの内容をアナウンスし、その意義と各学部の教育課程内での位置づけを確認している他、対象科目の開講時期に先立つ個別面談においても各学生のアドバイザーとなっている教員によって再度口頭で確認を行っている。また、全学生への情報提示・配信が可能な本学専用の修学支援・管理システムを利用し、各学部ごとに本プログラムについて発信することで情報提供を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

⑧⑨⑩に記載の通り、プログラム対象科目の全てが必修科目として設定されたことから、令和5年度以降の入学生については原則、1年次後期での履修率が100%となる見込みである。入学直後に毎年度実施される入学生ガイダンスにおいて本プログラムの内容をアナウンスし、その意義と各学部の教育課程内での位置づけを確認している他、1年次の後期履修登録に向けての個別面談において、必修科目を登録するよう指導するとともに履修に際する質問等に対応している。また、学生の履修状況を各学部の教務委員、教務部職員とで随時チェックすることで履修漏れを防ぐ体制を敷いている。当該年次に何らかの理由により履修ができなかった学生および、履修取り消しをした学生等については、その翌年度以降に履修(及び再履修)することが可能となっており、各学部の教務委員をはじめクラスアドバイザー等教職員が学生の状況を鑑みながら適切に履修指導を行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では各授業のシラバスに科目担当教員のオフィスアワー(研究室滞在時間帯)を記載しており、これについて各授業の第1回目にて履修者へ周知している。履修者はこの時間帯を利用し、直接教員の研究室を訪ね、学習指導を受けることができる。この他、メールや本学LMS等の遠隔支援システムを利用して担当教員に学習内容に関する質問をすることができる。担当教員は上記ルートによって寄せられた質問及び相談に対して返信または別途時間を設けての対面指導を行うなど、その解決にあたることとしている。また、本プログラムの対象科目ではデータ等を扱う際にMicrosoft Office365を使用する。本学では全学生にこのアカウントを付与しており、各自のBYOD端末へ当該ソフトウェアをインストールすることができる。授業開始までの期間中、もしくは授業期間中のコンピュータトラブル等については授業時間外に学部教員または総務部情報システム室職員等が支援を担当している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

大学自己点検・評価委員会	
(責任者名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">秋山 稔</span>	(役職名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学長</span>

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの履修者数、修了者数等は教務部において把握している。また、履修期間中にあつては対象科目の履修者出席状況を各学部教員が確認できる体制としている。数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提示する「モデルカリキュラム(リテラシーレベル)」に準拠した授業を展開した科目において、履修者数・修了者数及び学修成績分布等により、授業実施状況、出席状況、成績評価及び基準等について分析を行い、全体の理解度を検証する。なお、本科目は必修科目であることから履修状況については問題ないが、修得状況(単位取得状況)については全学教務委員会が状況を報告し、学生の履修指導につなげることとする。</p>
学修成果	<p>数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム対象科目において、各科目の履修者の成績評価をもとに学修成果を把握する。これらのデータは教務部および各学部の教務委員会が収集し分析を行った上、全学教務委員会にてとりまとめる。この分析結果をもとに検証し、全学的に行われている授業改善アンケートにより寄せられた学生の意見・要望も参考とすることで教育プログラムの改善を図る。また、本教育プログラム対象科目ではそれぞれにLMS上に課題等を置いているが、これらコンテンツに対する回答内容・状況についても今後検証を実施し、学部を越えて横断的に担当教員が共有できる体制を整備し、授業改善に活かすこととする。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本プログラム対象科目である「コンピュータ基礎演習Ⅱ」、「コンピュータ基礎演習Ⅱa」「コンピュータ基礎演習Ⅱb」および「ICT活用教育概論」における授業改善アンケートより次年度に向けた授業計画の見直し・改善を全学的に実施しており、これらのデータを基に大学自己点検・評価委員会にて検証を行い、理解度の向上を含めた本教育プログラムの改善に取り組む。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>本プログラム対象科目である「コンピュータ基礎演習Ⅱ」、「コンピュータ基礎演習Ⅱa」「コンピュータ基礎演習Ⅱb」及び「ICT活用教育概論」は、いずれも卒業要件の必修科目であることから後輩等の学生への推奨を特に必要としないが、学生が回答した授業改善アンケートに対する「教員コメント(学生へのフィードバック)」を担当教員へ伝えることにより、授業改善の駆動力としている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラム対象科目である「コンピュータ基礎演習Ⅱ」、「コンピュータ基礎演習Ⅱa」「コンピュータ基礎演習Ⅱb」及び「ICT活用教育概論」は、令和5年度より全学必修科目として実施することとなり、1年生については実質100%に近い履修率となる見込みである。全学としては年度を経る度に段階的に履修率は向上し、令和7年度には1～3年生において100%(全学年において90%)に達し、全科目が必修となった際の履修者が4年生となる令和8年度に履修率は100%となるよう計画している。今後も、全学必修科目として継続してプログラムを実施する予定としている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>当該プログラムにおける本授業科目は、令和4年度より内容を改訂し開講されているため、当該授業を修得し単位を修得して卒業した学生をまだ輩出していないが、卒業後、就職支援部と協力しながら、卒業後の追跡調査を実施する等、修了者のキャリアステップや活躍状況の把握に努めることとする。</p> <p>まず本学教育へ反映させることを目的とし、卒業生の就職先へのヒアリングにより、本学の教育に期待することや産業界で求められている資質・能力、本学卒業生に対する満足度等の情報収集を行う。そして、企業との教育コンテンツの共同開発等を通じて、産業界からのニーズの把握に取り組むこととし、卒業生の就職先に対するアンケート調査により、本教育プログラムの評価・改善サイクルを構築することとする。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>各学部の専門分野におけるデータサイエンス・AIの事例を積極的に取り扱うことで、自身の専門分野とのつながりを認識させ、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義の理解を促すこととする。また、知識の共有・定着化を図るため、グループワーク・ディスカッションを取り入れ、学生の学び合いやコミュニケーションを促進し、学ぶ楽しさや学習意欲の向上の促進に努める。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>全学教務委員会において、授業振り返りアンケート等の学生の意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討する。また、ファカルティ・ディベロップメント事業として、授業振り返りアンケートの結果を授業担当教員にフィードバックし、振り返りの内容を提出させることで、授業担当教員の授業改善を促進する取り組みを行う。</p>

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱ
科目ナンバリング	L1KG202
講義開講時期	後期
基準単位数	2
科目分類	教養科目
対象学科	文学部 文学科 日本文学専攻2022
対象年次	1年
必修／選択	必修
担当教員	鈴木 賢男
授業形態	演習

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトを操作し、表作成・グラフ作成および種々のデータ分析ができる。</li> <li>・公表されているデータを活用したり、フォームを用いたデータの収集を図ることができる。</li> <li>・ワープロソフト、表計算ソフトおよびウェブブラウザなどの異種ソフト間のデータ互換ができる。</li> <li>・オンライン会議用のツールを用いて、活動報告、討議などを行える。</li> </ul>			
講義概要	<p>「コンピュータ基礎演習Ⅰ」に引き続き、コンピュータの基礎的な操作方法の習得を目指す。本演習では、コンピュータ上でいくつかのソフトウェアを利用し、基本的な利用環境とその操作方法を習得する。具体的には、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用して、公表されているデータの入手(フォームによるデータ収集も含む)→データの分析→結果の整理を経て、得られた知見や考察についてグループでまとめ、他者に向けて発表・討議するまでの一連の流れを題材にした演習を実施する。</p>			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	鈴木賢男	表計算(1) 表組み(入力, 整理, 確認)	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
	第2回	鈴木賢男	表計算(2) 計算式(立式, 参照, 修正) 社会におけるデータ・AI活用: 社会で起きている変化	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
	第3回	鈴木賢男	表計算(3) グラフ(データ系列, グラフ挿入, 要素の設定) 社会におけるデータ・AI活用: 社会で活用されているデータ	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての

			確認ドリル (30分)
第4回	鈴木賢男	表計算(4)統計量の計算と方法(群別集計, 相関係数) 社会におけるデータ・AI活用: AIの活用領域	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
第5回	鈴木賢男	表計算(5)参照方式の違いによる計算式の複写(相対参照, 混合参照, 絶対参照) 社会におけるデータ・AI活用: AI活用のための技術	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
第6回	鈴木賢男	データ分析(1)データの取得(公表されているデータ等) 社会におけるデータ・AI活用: AI活用のための現場	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
第7回	鈴木賢男	データ分析(2)データの整理 社会におけるデータ・AI活用: AI活用の最新動向	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
第8回	鈴木賢男	データ分析(3)集計と基本統計量の算出 データリテラシー: データを読む	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
第9回	鈴木賢男	データ分析(4)群ごとの差異や変数間の関係 データリテラシー: データを説明する	復習: 課題の修正と取り組みについての報告メール(60分) 予習: 課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)
第10回	鈴木賢男	データ分析(5)分析結果の視覚化 データリテラシー: データを扱う	復習: 課題の修正と取

			<p>り組みについての報告メール(60分)</p> <p>予習:課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)</p>
第11回	鈴木賢男	<p>活動報告と討議(1)オンライン発表会の設営(Webサイトの作成)</p> <p>データ・AI活用における留意事項:データ・AIを扱う上での留意事項</p>	<p>復習:課題の修正と取り組みについての報告メール(60分)</p> <p>予習:課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)</p>
第12回	鈴木賢男	<p>活動報告と討議(2)グループワークによる発表に向けてのスケジュール管理</p> <p>データ・AI活用における留意事項:データを守る上での留意事項</p>	<p>復習:課題の修正と取り組みについての報告メール(60分)</p> <p>予習:課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)</p>
第13回	鈴木賢男	<p>活動報告と討議(3)グループワークによるスライド作成</p>	<p>復習:課題の修正と取り組みについての報告メール(60分)</p> <p>予習:課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)</p>
第14回	鈴木賢男	<p>活動報告と討議(4)フラッシュトーク用の要約資料等作成と役割分担</p>	<p>復習:課題の修正と取り組みについての報告メール(60分)</p> <p>予習:課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)</p>
第15回	鈴木賢男	<p>活動報告と討議(5)オンライン会議を利用したグループ別報告会</p>	<p>復習:課題の修正と取り組みについての報告メール(60分)</p> <p>予習:課題に関連する技術・知識についての確認ドリル(30分)</p>
定期試験	実施する		
授業計画補足	<p>当日の授業における主要な技術・知識について概要を示した後、その内容を実践的に応用していく実習を行う。実習における作業手順は、基本的にオンライン資料として提示するので、それに基づいて作業を行う。教員は、実習時に</p>		

	は、個別対応ができるように、個別に作業状況を確認する。
科目の位置づけ	現代社会において必須である情報リテラシーを修得する科目である。
アクティブラーニングの取り組み	毎回、技術や知識についての説明を聞いただけではなく、まとまりのある作業(例、案内文)を実際に行うことで、技術や知識の確認や定着を図る
課題に対するフィードバック	課題における必要条件(技能・知識の活用)が満たされない場合に、訂正箇所を提示して再提出をもとめる
教科書	前期「コンピュータ基礎演習 I」に同じ 情報リテラシー 入門編 Windows 11/Office 2021対応、富士通ラーニングメディア(著)、富士通ラーニングメディア(FOM出版)、2022年、ISBN978-4938927547
参考書	授業内で伝える
成績評価の方法	連絡確認(電子的な連絡による送受信の記録)…20%、課題提出(授業内で取り組んだ成果物の評価)…50%、定期試験(技能・知識に関する習熟度の確認)…30%、以上の総合評価としての採点をします。
履修上の注意	
オフィスアワー	木曜5限
実務経験	
授業用URL	
授業用メールアドレス	<a href="mailto:masao2022educate@gmail.com">masao2022educate@gmail.com</a>

講義名	ICT活用教育概論
科目ナンバリング	K1SIB11
講義開講時期	後期
基準単位数	2
科目分類	新課題対応力の育成
対象学科	教育学部2022
対象年次	1年
必修／選択	必修
担当教員	向田 識弘
授業形態	講義

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. タブレット端末や電子黒板等のICT機器の教授メディアとしての活用の意義・目的を理解する</li> <li>2. タブレット端末や電子黒板等のICT機器の各教科における学習指導の内容や場面に応じた活用及び指導方法をデジタル教科書との関連も含めて習得する</li> <li>3. タブレット端末や電子黒板等のICT機器を活用する際の情報モラルの基本的な知識を身につける</li> <li>4. プログラミング教育の意義・目的を理解し、プログラミング的思考を育む指導方法を習得する</li> </ol>			
講義概要	<p>インターネットの発達とGIGAスクール構想による一人一台情報端末の整備により教育の情報化が進展し、新しい学習指導のあり方が求められている。本講義では、これまでの視聴覚教育の歴史を踏まえ、幼稚園および学校教育におけるICT活用の意義、目的、特長を理解し、タブレット端末や電子黒板等のICT機器、デジタル教科書や教育用アプリケーションの活用について、習熟、説明、提示等の視点に基づき、各教科の具体的実践場面を取り上げて講義する。学習指導案作成や模擬授業を通して、小学校および中学校におけるICTを活用した学習指導法を習得することを目的としている。またICTの両輪としての情報モラル教育・メディアリテラシー教育、小学校に必修化されたプログラミング教育にも留意する。</p>			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	向田識弘	教育におけるICT活用の在り方・・・オリエンテーション 【教育におけるAI・データサイエンス】1-1 社会で起きている変化, AIの弱点	予習:「学びのイノベーション」「教育の情報化に関する手引き」等をよく読み, ICTがアクティブ・ラーニングを促進する要因について整理しておく(60分) 復習:技術の長所・短所を考え, 情報リテラシーについて考えを整理しておく。(30分)
	第2回	向田識弘	教育におけるICT活用の背景・・・電子機器(電子黒板など)の機能と活用 【教育におけるAI・データサイエンス】1-2 社会で活用されているデータ(政府統計のデータを調べ, 整理する)	予習:一斉授業, 個別授業, 協働学習それぞれの形態についてその留意点を整理しておく。(45分) 復習:電子黒板の操作

			方法について振り返り、効果的な活用方法について考えておく。(45分)
第3回	向田識弘	情報端末の機能と活用・・・主体的・対話的で深い学びのためのICT、情報端末の効果的な活用 【教育におけるAI・データサイエンス】1-3 データ・AIの活用領域(買い物の混雑を避けるという課題を解決する買い物混雑マップの体験)	予習:情報端末(例えばタブレット型端末など)の基本機能や基本操作方法について理解しておく。(45分) 復習:学習者が主体的な学びを展開できるような支援・配慮が必要か考え、レポートに整理する。(45分)
第4回	向田識弘	ICT活用におけるモラルやルールづくり、デジタルシティズンシップ教育の推進 【教育におけるAI・データサイエンス】1-4 データ・AI利活用のための技術(画像認識体験とその活用例)	予習:子どもたちが情報端末を使う際に必要なルールと必要でないルールを考えておく。(45分) 復習:学校においてどのようなデジタル体験が健全なネット社会の育成につながるかをレポートにまとめる。(45分)
第5回	向田識弘	効果的なICT活用1・・・幼稚園・小学校・中学校における活用事例の調査・検討(深い学びに向けた対話的な学習方法) 【教育におけるAI・データサイエンス】1-5 データ・AI利活用の現場(AIによる言語解析の体験とその活用例)	予習:対話的な学びにつながる情報端末の活用例についてインターネットを活用して調べておく。(45分) 復習:授業で取り上げた事例の他にどのような活用事例があるか確認する(45分)
第6回	向田識弘	効果的なICT活用2・・・幼稚園・小学校・中学校における活用事例の調査・検討(深い学びのためのデジタル教材の活用) 【教育におけるAI・データサイエンス】1-6 データ・AI利活用の最新動向(AIリテラシーの考え方)	予習:授業で紹介した実践事例に関する映像やデジタル教材を視聴し、グループでの協議を経て、さらに授業イメージを拡充しておく。(45分) 復習:ICTの長所と短所に着目しながら、授業においてどのようにICT

			を活用するかを考える。(45分)
第7回	向田識弘	事例に基づく指導計画(学習指導案)の作成演習 【教育におけるAI・データサイエンス】2-1 データ(人口統計や気象データ)を読む	予習:学習指導案の構成を知り、小学校または幼稚園における授業事例のICTを活用した指導方法を検討する(30分) 復習:グループで指導案づくりに取り組む(60分)
第8回	向田識弘	事例に基づく指導計画(学習指導案)の作成演習 【教育におけるAI・データサイエンス】2-2 データを説明する(人口統計や気象データのグラフ化)	予習:グループで指導案づくりに取り組む(45分) 復習:グループで指導案づくりに取り組む(45分)
第9回	向田識弘	指導計画の発表とICT活用模擬授業 【教育におけるAI・データサイエンス】2-3 データを扱う(人口統計や気象データの並べ替えや順位付け)	予習:グループで指導案づくりに取り組む(45分) 復習:模擬授業の結果を振り返り、ICTの活用に向けて子どもたちに必要な支援について考える。(45分)
第10回	向田識弘	指導計画の発表とICT活用模擬授業 ICT活用指導力チェックリストをもとにした省察と授業改善	予習:グループで指導案づくりに取り組む(45分) 復習:ICT活用指導力チェックリストの項目を満たすために、在学中に取り組むことをレポートにまとめる(45分)
第11回	向田識弘	ICTとSTAEM学習(情報端末を活用したデジタル作品づくり)	予習:STEAM教育とは何かについて事前に調べておく(30分) 復習:グループで情報端末を活用した作品づくりに取り組む(60分)
第12回	向田識弘	情報端末を活用したデジタル作品づくり(数学や理科の科学的な概念に基づくデジタルの活用)	予習:デジタルのメリット・デメリットを整理して、作品の構想をまとめる

			(45分) 復習:グループで情報端末を活用した作品づくりに取り組む(45分)
	第13回	向田識弘	情報端末を活用したデジタル作品づくりと指導計画の作成 題材を通して学ぶ内容の整理と指導方法の検討
	第14回	向田識弘	プログラミング教育とICT(ビジュアル言語のプログラミング体験) 【教育におけるAI・データサイエンス】3-1 データ・AIを扱う上での留意事項 (データやAIの利用における倫理的な問題)
	第15回	向田識弘	これからの教育に求められるICT活用と課題 【教育におけるAI・データサイエンス】3-2 データを守る上での留意事項(データ流出のリスクと利用の承諾)
			予習:作品作りを通して指導に必要な準備と、学習を通して身につけられる力をまとめておく(45分) 復習:授業で考えたことをもとに指導案作成に取り組む(45分)
			予習:プログラミング教育にかかわるWebサイト(例えばNHK for Schoolなどの)のサイトを見ていくつか番組を視聴しておく。(30分) 復習:応用課題に取り組み、順次・反復・条件分岐の基本的なプログラムを理解する。(60分)
			予習:どのようなことが教育に求められているのかについて社会的背景もふまえて調べておく(30分) 復習:これまでの授業を受けて、ICTの活用に向けた学校での取り組みをまとめ、これからの学びとICTの関連についてレポートにまとめる(60分)
定期試験	定期試験は実施しない(レポート)		
授業計画補足	デジタル教材等を含む授業支援システムとICTルームを活用する。またBYOD(個人所有)およびICTルームのiPadを活用しながら授業を進める。なお、全15回において無償版の双方向型インタラクティブ投票システムを活用して、受講生の情報端末からリアルタイムで意見を収集し、授業にて共有・展開する授業を行う。		
科目の位置づけ	教育に関する諸課題を主体的に発見・分析・理解し、幅広い専門的知見をもとにその対応策について協働的に考え、行動するための基礎的な知識及び技能を修得するための科目である。前提として、本科目受講前にコンピュータ基礎演習を受講しなければならない。		

アクティブラーニングの取り組み	グループでの協議、討議を毎時間設定する。ICTを活用した協働学習を取り入れる。
課題に対するフィードバック	理解度確認テストおよびレポートはGoogleclassroom等を使って評価後の返却を行う
教科書	必要な資料等を授業中に配布する
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領解説』, 文部科学省『中学校学習指導要領解説』, 文部科学省『幼稚園教育要領』, その他授業で紹介する
成績評価の方法	新しい学習指導のあり方およびICTやタブレット端末の機能を理解し、幼稚園、小学校および中学校におけるICTを活用した学習指導法を習得することができたかどうかについて、随時実施する課題レポートとそのプレゼンテーション、ICTを活用した制作物、受講態度等を総合的に評価する。
履修上の注意	毎時間、ノートパソコンを使用するので持参すること
オフィスアワー	水曜2限
実務経験	公立中学校(技術・家庭科)教員, 大学附属学校教員(技術・家庭科, 情報科)
授業用URL	
授業用メールアドレス	<a href="mailto:mukaida@kanazawa-gu.ac.jp">mukaida@kanazawa-gu.ac.jp</a>

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱa
科目ナンバリング	E1SIC12/E2SIC14
講義開講時期	3クォータ
基準単位数	1
科目分類	専門選択科目
対象学科	<a href="#">経済学部 経営学科2022</a> <a href="#">経済学部 経済学科2022</a> <a href="#">経済学部 経営学科2021</a> <a href="#">経済学部 経済学科2021</a> <a href="#">経済学部 経営学科2020</a> <a href="#">経済学部 経済学科2020</a>
対象年次	1年
必修／選択	
担当教員	松井 良雄
授業形態	演習

到達目標	表計算ソフトであるエクセルを利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、4年間の学習に必要な情報処理能力の基礎を身につけ、内容を具体的に説明できる。			
講義概要	コンピュータ基礎演習Ⅰに続いて、コンピュータ利用の中級コースを学ぶ科目と位置づける。具体的には、表計算ソフトを中心に利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、実習を通じてデータ処理の実際を学ぶ。受講生が教室の収容定員を超えた場合は、習熟度別に以下の2種類のクラスに分ける。1)コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。2)コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス(再履修生を含む)。コンピュータ基礎演習Ⅰの成績によるクラス分けを初回ガイダンスで発表し、調整を行いクラスを決定する。			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	松井 良雄	ガイダンス、クラス分けの説明・確認 数理データサイエンスAIリテラシー：1-1 社会で起きている変化	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第2回	松井 良雄	Excelの基本操作 数理データサイエンスAIリテラシー：1-2 社会で活用されているデータ	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第3回	松井 良雄	表の作成、編集 数理データサイエンスAIリテラシー：1-3 データ・AIの活用領域	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第4回	松井 良雄	初歩的な関数(基本)ROUND、SUMなどの数学／三角関数、TODAY、NOWなどの日付／時刻関数 数理データサイエンスAIリテラシー：1-4 データ・AI利活用のための技術	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第5回	松井 良雄	初歩的な関数(応用)IFなどの論理関数、RANK、COUNTなどの統計関数 数理データサイエンスAIリテラシー：1-5 データ・AI利活用の現場	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める

			分)に努める
	第6回	松井 良雄 データの並べ替え・抽出 数理データサイエンスAIリテラシー：1-6 データ・AI利活用の最新動向	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第7回	松井 良雄 グラフの作成(棒グラフ) 数理データサイエンスAIリテラシー：2-1 データを読む	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第8回	松井 良雄 グラフの作成(円グラフ)演習問題 数理データサイエンスAIリテラシー：2-2 データを説明する	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
定期試験	実施しない。		
授業計画補足	演習中心		
科目の位置づけ	ディプロマポリシー「企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる」を念頭におき、経済情報学部の履修科目の基礎となる情報リテラシーを修得する中級科目として位置づける。		
アクティブラーニングの取り組み	毎回、課題演習に取り組むことにより、受講者間での教え合い、受講者から教員への質問、課題の評価を受けることで、双方向の学修を実現する。		
課題に対するフィードバック	課題への取り組みを次回以降の講義内容に反映させ、双方向学習への駆動力とする。具体的には、課題の内容を次回の講義の中に組み込み、議論の対象とする。		
教科書	コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門練習問題集 Ver. 4(2018年4月改定版)		
参考書	適宜プリント配布 アプリケーションソフトの基礎知識(デジタルリテラシーの基礎シリーズ) 立山秀利(著)		
成績評価の方法	授業への参加度(33%)、課題提出(67%)		
履修上の注意			
オフィスアワー	月曜日3限		
実務経験			
授業用URL			
授業用メールアドレス			

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱb
科目ナンバリング	E1SIC13/E2SIC15
講義開講時期	4クォーター
基準単位数	1
科目分類	専門選択科目
対象学科	<a href="#">経済学部 経営学科2022</a> <a href="#">経済学部 経済学科2022</a> <a href="#">経済学部 経営学科2021</a> <a href="#">経済学部 経済学科2021</a> <a href="#">経済学部 経営学科2020</a> <a href="#">経済学部 経済学科2020</a>
対象年次	1年
必修/選択	
担当教員	松井 良雄
授業形態	演習

到達目標	表計算ソフトであるエクセルを利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、4年間の学習に必要な情報処理能力の基礎を身につけ、内容を具体的に説明できる。			
講義概要	コンピュータ基礎演習Ⅰに続いて、コンピュータ利用の中級コースを学ぶ科目と位置づける。具体的には、表計算ソフトを中心に利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、実習を通じてデータ処理の実際を学ぶ。受講生が教室の収容定員を超えた場合は、習熟度別に以下の2種類のクラスに分ける。1) コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。2) コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス(再履修生を含む)。コンピュータ基礎演習Ⅰの成績によるクラス分けを初回ガイダンスで発表し、調整を行いクラスを決定する。			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	松井 良雄	条件付き書式設定 数理データサイエンスAIリテラシー : 2-3 データを扱う	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第2回	松井 良雄	関数(基本) LOOKUP などの検索/行列関数 数理データサイエンスAIリテラシー : 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める

	第3回	松井 良雄	関数（応用）DAVERAGE などのデータベース関数 数理データサイエンスAIリテラシー：3-2 データを守る上での留意事項	事前の準備（90分）および事後の内容確認（90分）に努める
	第4回	松井 良雄	関数（発展）FIND などの文字列操作関数 数理データサイエンスAIリテラシー：4-1 統計および数理基礎	事前の準備（90分）および事後の内容確認（90分）に努める
	第5回	松井 良雄	リストのデータ操作（オートフィルタ、フィルタオプション） 数理データサイエンスAIリテラシー：4-2 アルゴリズム基礎	事前の準備（90分）および事後の内容確認（90分）に努める
	第6回	松井 良雄	リストのデータ操作（集計、クロス集計） 数理データサイエンスAIリテラシー：4-3 データ構造とプログラミング基礎	事前の準備（90分）および事後の内容確認（90分）に努める
	第7回	松井 良雄	高度なグラフ作成（レーダーチャート、株価、ドーナツ面、バブルチャート、散布図） 数理データサイエンスAIリテラシー：4-4 時系列データの解析	事前の準備（90分）および事後の内容確認（90分）に努める
	第8回	松井 良雄	高度なグラフ作成等高線、複合、3D、グラフの編集） 数理データサイエンスAIリテラシー：4-5 テキスト解析	事前の準備（90分）および事後の内容確認（90分）に努める
定期試験	実施しない。			
授業計画補足	演習中心			
科目の位置づけ	ディプロマポリシー「企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる」を念頭におき、経済情報学部の履修科目の基礎となる情報リテラシーを修得する中級科目として位置づける。			
アクティブラーニングの取り組み	毎回、課題演習に取り組むことにより、受講者間での教え合い、受講者から教員への質問、課題の評価を受けることで、双方向の学修を実現する。			

課題に対するフィードバック	課題への取り組みを次回以降の講義内容に反映させ、双方向学習への駆動力とする。具体的には、課題の内容を次回の講義の中に組み込み、議論の対象とする。
教科書	コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門練習問題集 Ver. 4 (2018年4月改定版)
参考書	適宜プリント配布 アプリケーションソフトの基礎知識 (デジタルリテラシーの基礎シリーズ) 立山秀利(著)
成績評価の方法	授業への参加度 (33%)、課題提出 (67%)
履修上の注意	
オフィスワーク	月曜日3限
実務経験	
授業用URL	
授業用メールアドレス	

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱa
科目ナンバリング	IISFC14
講義開講時期	3クォータ-
基準単位数	1
科目分類	専門選択科目
対象学科	<a href="#">経済情報学部 経済情報学科2022</a> <a href="#">経済情報学部 経済情報学科2021</a> <a href="#">経済情報学部 経済情報学科2020</a>
対象年次	1年
必修／選択	選択
担当教員	石川 温
授業形態	講義

到達目標	表計算ソフトであるエクセルを利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、4年間の学習に必要な情報処理能力の基礎を身につけ、内容を具体的に説明できる。			
講義概要	<p>コンピュータ基礎演習Ⅰに続いて、コンピュータ利用の中級コースを学ぶ科目と位置づける。具体的には、表計算ソフトを中心に利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、実習を通じてデータ処理の実際を学ぶ。受講生が教室の収容定員を超えた場合は、習熟度別に以下の2種類のクラスに分ける。1)コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。2)コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス(再履修生を含む)。コンピュータ基礎演習Ⅰの成績によるクラス分けを初回ガイダンスで発表し、調整を行いクラスを決定する。</p>			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	石川 温	ガイダンス、クラス分けの説明・確認 1-1 社会で起きている変化	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第2回	石川 温	Excelの基本操作 1-2 社会で活用されているデータ	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第3回	石川 温	表の作成、編集 1-3 データ・AIの活用領域	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第4回	石川 温	初歩的な関数(基本)ROUND、SUMなどの数学／三角関数、TODAY、NOWなどの日付／時刻関数 1-4 データ・AI利活用のための技術	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第5回	石川 温	初歩的な関数(応用)IFなどの論理関数、RANK、COUNTなどの統計関数 1-5 データ・AI利活用の現場	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める

	第6回	石川 温	データの並べ替え・抽出 1-6 データ・AI活用の最新動向	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第7回	石川 温	グラフの作成(棒グラフ) 2-1 データを読む	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第8回	石川 温	グラフの作成(円グラフ)演習問題 2-2 データを説明する	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
定期試験	実施しない			
授業計画補足	演習中心			
科目の位置づけ	ディプロマポリシー「企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる」を念頭におき、経済情報学部の履修科目の基礎となる情報リテラシーを修得する中級科目として位置づける。			
アクティブラーニングの取り組み	毎回、課題演習に取り組むことにより、受講者間での教え合い、受講者から教員への質問、課題の評価を受けることで、双方向の学修を実現する。			
課題に対するフィードバック	課題への取り組みを次回以降の講義内容に反映させ、双方向学習への駆動力とする。具体的には、課題の内容を次回の講義の中に組み込み、議論の対象とする。			
教科書	コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門練習問題集 Ver. 4(2018年4月改定版)			
参考書	アプリケーションソフトの基礎知識(デジタルリテラシーの基礎シリーズ) 立山秀利(著) 数理・データサイエンス・AI教育 リテラシーレベル教材(東京大学 数理・情報教育研究センター)			
成績評価の方法	授業への参加度(33%)、課題提出(67%)			
履修上の注意	コロナ禍において実施不能な場合は、クラス分けを行わない。			
オフィスアワー	毎週金曜日の4限			
実務経験				
授業用URL				
授業用メールアドレス				

講義名	コンピュータ基礎演習 II b
科目ナンバリング	IISFC15
講義開講時期	4クォータ
基準単位数	1
科目分類	専門選択科目
対象学科	<a href="#">経済情報学部 経済情報学科2022</a> <a href="#">経済情報学部 経済情報学科2021</a> <a href="#">経済情報学部 経済情報学科2020</a>
対象年次	1年
必修／選択	選択
担当教員	石川 温
授業形態	講義

到達目標	表計算ソフトであるエクセルを利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、4年間の学習に必要な情報処理能力の基礎を身につけ、内容を具体的に説明できる。			
講義概要	<p>コンピュータ基礎演習 I に続いて、コンピュータ利用の中級コースを学ぶ科目と位置づける。具体的には、表計算ソフトを中心に利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、実習を通じてデータ処理の実際を学ぶ。受講生が教室の収容定員を超えた場合は、習熟度別に以下の2種類のクラスに分ける。1) コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。2) コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス(再履修生を含む)。コンピュータ基礎演習 I の成績によるクラス分けを初回ガイダンスで発表し、調整を行いクラスを決定する。</p>			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	石川 温	条件付き書式設定 2-3 データを扱う	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第2回	石川 温	関数(基本)LOOKUP などの検索／行列関数 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第3回	石川 温	関数(応用)DAVERAGE などのデータベース関数 3-2 データを守る上での留意事項	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第4回	石川 温	関数(発展)FIND などの文字列操作関数 4-1 統計および数理基礎	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第5回	石川 温	リストのデータ操作(オートフィルタ、フィルタオプション) 4-2 アルゴリズム基礎	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める

	第6回	石川 温	リストのデータ操作(集計、クロス集計) 4-3 データ構造とプログラミング基礎	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第7回	石川 温	高度なグラフ作成(レーダーチャート、株価、ドーナツ面、バブルチャート、散布図) 4-4 時系列データの解析	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
	第8回	石川 温	高度なグラフ作成等高線、複合、3D、グラフの編集) 4-5 テキスト解析	事前の準備(90分)および事後の内容確認(90分)に努める
定期試験	実施しない			
授業計画補足	演習中心			
科目の位置づけ	ディプロマポリシー「企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる」を念頭におき、経済情報学部の履修科目の基礎となる情報リテラシーを修得する中級科目として位置づける。			
アクティブラーニングの取り組み	毎回、課題演習に取り組むことにより、受講者間での教え合い、受講者から教員への質問、課題の評価を受けることで、双方向の学修を実現する。			
課題に対するフィードバック	課題への取り組みを次回以降の講義内容に反映させ、双方向学習への駆動力とする。具体的には、課題の内容を次回の講義の中に組み込み、議論の対象とする。			
教科書	コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門練習問題集 Ver. 4(2018年4月改定版)			
参考書	アプリケーションソフトの基礎知識(デジタルリテラシーの基礎シリーズ) 立山秀利(著) 数理・データサイエンス・AI教育 リテラシーレベル教材(東京大学 数理・情報教育研究センター)			
成績評価の方法	授業への参加度(33%)、課題提出(67%)			
履修上の注意				
オフィスアワー	毎週金曜日の4限			
実務経験				
授業用URL				
授業用メールアドレス				

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱ
科目ナンバリング	A1KC202
講義開講時期	後期
基準単位数	2
科目分類	一般教養
対象学科	<a href="#">芸術学部芸術学科2022</a> <a href="#">芸術学部芸術学科2021</a> <a href="#">芸術学部芸術学科2020</a> <a href="#">芸術学部芸術学科2019</a> <a href="#">芸術学部芸術学科2018</a>
対象年次	1年
必修/選択	必修
担当教員	吉田 一誠
授業形態	演習

到達目標	<p>本講義の到達目標およびテーマは以下の3点である。1. 新入生が表計算ソフトに不慣れであることを考慮して初心者向けに演習する。2. セルの絶対参照や相対参照など表計算では必須の知識を学び理解する。3. 表計算ソフト自体が実世界のモデル化の道具であり、実際のデータを元に数値計算し、さらにグラフすることで視覚にて理解する。</p>			
講義概要	<p>表計算ソフトの内部では特定のデータが数値、文字列、時刻/日付として処理されていることや作表をはじめとした書式設定について実習する。相対参照と絶対参照を確認して式を扱い、その応用として関数を利用して計算/検索する。関数は集計、検索、論理、日付と時刻そして文字列に関するものを扱う。さらにグラフ機能ではグラフエリア、軸、プロットエリアの調整はもちろんグラフ要素の追加と書式設定によりデータの意味を視覚化して読み取る演習を行う。</p>			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	吉田一誠	ガイダンス、クラス分けの説明・確認 1-1 社会で起きている変化	例題1の該当部分の復習
	第2回	吉田一誠	Excelの基本操作 1-2 社会で活用されているデータ	例題1の該当部分の復習
	第3回	吉田一誠	表の作成、編集 1-3 データ・AIの活用領域	例題2の該当部分の復習
	第4回	吉田一誠	初歩的な関数（基本）ROUND、SUMなどの数学/三角関数、 TODAY、NOWなどの日付/時刻関数	例題2の該当部分の復

		1-4 データ・AI活用のための技術	習
第5回	吉田一誠	初歩的な関数（応用）IF などの論理関数、RANK、COUNT などの統計関数 1-5 データ・AI活用の現場	P1課題 2
第6回	吉田一誠	データの並べ替え・抽出 1-6 データ・AI活用の最新動向	P2課題 2
第7回	吉田一誠	グラフの作成（棒グラフ） 2-1 データを読む	P1課題3
第8回	吉田一誠	グラフの作成（円グラフ） 演習問題 2-2 データを説明する	P2課題 3
第9回	吉田一誠	条件付き書式設定 2-3 データを扱う	P1課題1
第10回	吉田一誠	関数（基本）LOOKUP などの検索／行列関数 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項	P2課題 1
第11回	吉田一誠	関数（応用）DAVERAGE などのデータベース関数 3-2 データを守る上での留意事項	P3課題 1
第12回	吉田一誠	編集・印刷：データのわかりやすい視覚化のために	P2,3を20分で演習
第13回	吉田一誠	演習	P1,2を35分で演習
第14回	吉田一誠	グラフ描画を中心とした総合演習	P1,2,3を45分で試す
第15回	吉田一誠	復習	試験前の確認
定期試験	実技試験を行う		
授業計画補足	moodle上で示す「数理・データサイエンス・AI教材（リテラシーレベル）」（東京大学 数理・情報教育研究センター提供）を使用して数理・データサイエンス・AIを取り巻く現状について説明する。また、各自で本教材を事前事後学習に利用すること。		
科目の位置づけ	芸術学科のディプロマポリシー「多様なメディアデザインの専門技能、知識を身につけ、情報発信することができる。」を達成するための科目である。		
アクティブラーニングの取り組み	本演習は演習科目であるのでアクティブラーニングの形式となっている。課題の提出や小テストにはmoodleを利用することもある。		
課題に対するフィードバック	moodleでコメントするので必ずチェックする		
教科書	講義資料はこちらで準備する		

参考書	
成績評価の方法	試験（70%）、課題（30%）として総合的に判断する。
履修上の注意	アプリケーションソフトのファイル保存のためにUSBメモリ4Gbyte以上を準備してください。このUSBメモリは他の授業と兼用してもよい。 最初の時間に欠席する場合はその週の間に来て下さい。
オフィスアワー	金曜日 13:10～14:40
実務経験	
授業用URL	
授業用メールアドレス	

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱ
科目ナンバリング	H1KG202
講義開講時期	後期
基準単位数	2
科目分類	教養選択科目
対象学科	スポーツ科学部スポーツ科学科2022 <a href="#">スポーツ科学部スポーツ科学科2021</a>
対象年次	1年
必修／選択	選択
担当教員	福井 卓也
授業形態	演習

到達目標	卒業研究やレポートなどの内容を発表するためにPowerPointを利用して説得力のあるプレゼンテーション資料が作成できる。Exceを用いて適切なデータ処理を行い正確で視認性が高い図表を作成できる。社会におけるデータ・AI活用やデータリテラシーに関する基本的事項について説明することができる。			
講義概要	本演習では、前期の演習で身に付けた知識や技術をもとに、情報を発信させるための技術や情報倫理などの基礎知識を習得する。情報を発信させること、および情報化社会に関わるためにはコミュニケーション力が求められ、プレゼンテーションにはPowerPointの利用は必要不可欠であり、本演習ではその基本操作を習得させる。さらに、モバイル機器は現代人の必須のツールであり、それとコンピュータとの同期操作、情報セキュリティや情報モラルとその具体的な活動などに関する知識を深め、情報倫理の基礎を理解する。			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	福井卓也	オリエンテーション、コンピュータ基礎演習Ⅰの総復習	予習「次回テーマについて調べておく」(45分)、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
	第2回	福井卓也	PowerPointによるスライド作成:基本的事項 社会におけるデータ・AI活用(1)社会で起きている変化	予習「次回テーマについて調べておく」(45分)、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
	第3回	福井卓也	PowerPointによるスライド作成:スライドショー、スライドの視認性 社会におけるデータ・AI活用(2)社会で活用されているデータ	予習「次回テーマについて調べておく」(45分)、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
	第4回	福井卓也	PowerPointによるスライド作成:マスターの基本 社会におけるデータ・AI活用(3)データ・AIの活用領域	予習「次回テーマについて調べておく」(45分)、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)

第5回	福井卓也	PowerPointによるスライド作成: マスターの応用 社会におけるデータ・AI利活用(4) データ・AI利活用のための技術	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第6回	福井卓也	PowerPointによるスライド作成: アニメーション、画面切り替え、画像・動画挿入、図表作成の基本 社会におけるデータ・AI利活用(5) データ・AI利活用の現場	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第7回	福井卓也	PowerPointによるスライド作成: アニメーション、画面切り替え、画像・動画挿入、図表作成の応用 社会におけるデータ・AI利活用(6) データ・AI利活用の最新動向	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第8回	福井卓也	Excelによる表計算: 基本的事項 データリテラシー(1) データを読む	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第9回	福井卓也	Excelによる表計算: 関数、セルの表示形式 データリテラシー(2) データを説明する	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第10回	福井卓也	Excelによる表計算: 図の作成の基本 データリテラシー(3) データを扱う	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第11回	福井卓也	Excelによる表計算: 図の作成の応用 データ・AIを扱う上での留意事項	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第12回	福井卓也	Excelによる表計算: 表の作成、データの並び替え、フィルタの基本 データを守る上での留意事項	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
第13回	福井卓也	Excelによる表計算: 表の作成、データの並び替え、フィルタの応用	予習「次回テーマについて調べておく」(45分) 、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)

	第14回	福井卓也	Excelによる表計算: 修飾とテーブル機能	予習「次回テーマについて調べておく」(45分)、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
	第15回	福井卓也	クラウド上のアプリケーションの仕組みと利用	予習「次回テーマについて調べておく」(45分)、復習「演習した内容に再度取り組む」(45分)
定期試験	実施しない。			
授業計画補足				
科目の位置づけ	専門必修科目の「専門演習 I・II」、専門選択科目の「情報活用演習」、「プレゼンテーション演習」の基礎となる。			
アクティブラーニングの取り組み	本科目は演習授業であり、課題の遂行とフィードバックを繰り返し行う。			
課題に対するフィードバック	提出課題の完成度に応じてフィードバックを行う。			
教科書	なし			
参考書				
成績評価の方法	課題100%			
履修上の注意	前期開講の「コンピュータ基礎演習 I」の単位を取得していることが望ましい。			
オフィスアワー	月曜昼休み			
実務経験				
授業用URL				
授業用メールアドレス	<a href="mailto:fukui@kanazawa-gu.ac.jp">fukui@kanazawa-gu.ac.jp</a>			

講義名	コンピュータ基礎演習Ⅱ
科目ナンバリング	H2KC402
講義開講時期	後期
基準単位数	2
科目分類	教養選択科目
対象学科	栄養学部栄養学科2022
対象年次	1年
必修／選択	選択
担当教員	高橋 徹
授業形態	演習

到達目標	Officeを使いこなして、プレゼンテーションやレポートが使えるようになる。			
講義概要	<p>本演習では、前期の演習で身に付けた知識や技術をもとに、情報を発信させるための技術や情報倫理などの基礎知識の習得を目指す。</p> <p>情報を発信させること、および情報化社会に関わるためにはコミュニケーション力が求められ、プレゼンテーションにはPowerPointの利用は必要不可欠であり、本演習ではその基本操作を身に付けさせる。さらに、モバイル機器は現代人の必須のツールであり、それとコンピュータとの同期操作、情報セキュリティや情報モラルとその具体的な活動などに関する知識を深め、情報倫理の基礎を理解させる。</p>			
授業計画	回	担当教員	内容	授業時間外の学習
	第1回	高橋	<p>プレゼンテーションについて</p> <p>プレゼンテーションの基礎について解説します。なんのためにプレゼンテーションをするのか、どうやって伝えるのか、してはいけないことは何かなどについて解説します。プレゼンテーションの技術についても解説します。1-1 社会で起きている変化、1-6 データ・AI利活用の最新動向、3-1 データ・AIを扱う上での留意事項</p>	<p>プレゼンテーションについて予習しておく(90分)。学んだことを復習する(90分)。</p>
	第2回	高橋	<p>TEDによるプレゼンテーションの技術の解説1</p> <p>TEDで発表しているプレゼンテーション技術を解説します。1-3 データ・AIの活用領域</p>	<p>TEDの課題について予習しておく(90分)。学んだことを復習する(90分)。</p>
	第3回	高橋	<p>TEDによるプレゼンテーションの技術の解説2</p> <p>2とは別のプレゼンテーション技術を解説します。1-2 社会で活用されているデータ</p>	<p>TEDの課題について予習しておく(90分)。学んだことを復習する(90分)。</p>
	第4回	高橋	<p>プレゼンテーションの実際</p> <p>プレゼンテーションの注意事項、プレゼンテーション技術などのおさらいを行います。プレゼンテーションをする準備を各自行います。各自、プレゼンテーションの構想を練ります。構想を紙に絵で書いて添削しあうことで、発表の構想を作成していきます。導入、目的、ストーリー、結論について草稿をつくります。1-4 データ・AI利活用のための技術</p>	<p>プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを復習する(90分)。</p>
	第5回	高橋	<p>プレゼンテーションの構成を練り直し①。</p> <p>お互いに伝わるプレゼンテーションかどうかについて、意見を出しながらプレゼンテーションについて、構想を紙と鉛筆でつくります。導入、目的、ストーリー、結論について明確化します。1-5 データ・AI利活用の現場</p>	<p>プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを</p>

			復習する(90分)。
第6回	高橋	プレゼンテーションの構成を練り直し②。 Power Pointの使用方法を概説します。上の構想を基にPower Pointを使用して、スライドを作成します。スライド作成中も、ストーリーとセリフが合うかなど、構想を具体化していきます。2-1データを読む	プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第7回	高橋	プレゼンテーションの構成を練り直し③ スライド作成中も、ストーリーとセリフが合うかなど、構想を具体化していきます。プレゼンテーションの練習を行って、齟齬については、スライドを改定していき、話すこととスライドをあわせていきます。2-1データを読む	プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第8回	高橋	プレゼンテーション1 実際に1分間のプレゼンテーションを行います。お互いに意見を出して、改良方法を考えます。Power Pointの改良も行います。1-2 社会で活用されているデータ	プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第9回	高橋	プレゼンテーション2 改良したPower Pointのスライドを用いて、プレゼンテーションを再度行います。お互いに意見を出して、改良方法を考えます。Power Pointの改良も行います。1-3 データ・AIの活用領域、2-2 データを説明する、3-2 データを守る上での留意事項	プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第10回	高橋	プレゼンテーション3 改良したPower Pointのスライドを用いて、3回目のプレゼンテーションを行います。お互いに意見を出します。2-1データを読む、1-5 データ・AI利活用の現場、1-3 データ・AIの活用領域	プレゼンの準備を行う(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第11回	高橋	実際のレポートの作成 データを基に、図表を作成し、レポートを作成する。ExcelとPower PointとWordを用いて、レポートを作成する。まずはデータを集計して、グラフ化して、言えることを議論する。2-1 データを読む	WordとExcelとPower pointについて予習しておく(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第12回	高橋	実際のレポートの作成② これまでの知識と技術を用いて、レポートの作成を行うためのレイアウトなどを作成する。レイアウトについて議論する。2-2 データを説明する、1-6 データ・AI利活用の最新動向、2-3 データを扱う	レポートについて予習しておく(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第13回	高橋	実際のレポートの作成③ これまでの知識と技術を用いて、レポートの作成を行う。2-3 データを扱う	予習としてレポートを作成する(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第14回	高橋	レポートの評価 学生同士でレポートの評価を行う。議論も行います。	予習としてレポートを作成する(90分)。学んだことを復習する(90分)。
第15回	高橋	まとめ	振り返りを行う。
定期試験	実施します。		
授業計画補足	学生は、基本的に個人のパソコンを持参して、授業を受けること。また、データを保存するUSBメモリなどを用意すること。		

	本講義は、OSをWindows10、ソフトをMicrosoftのoffice365を基本として使用する。
科目の位置づけ	一年生のうちに身に着けたい情報技術を身につける。
アクティブラーニングの取り組み	議論、発表を行います(全回)。
課題に対するフィードバック	講義中に行います。
教科書	学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー
参考書	講義中に伝えます。
成績評価の方法	期末テスト50%、本授業の取り組み度50%
履修上の注意	コンピュータを履修していること
オフィスアワー	火曜日16時
実務経験	
授業用URL	
授業用メールアドレス	<a href="mailto:t-takahasi@kanazawa-gu.ac.jp">t-takahasi@kanazawa-gu.ac.jp</a>

## (2) 文学部規程 別表第1 文学部教育課程表(文学科)

《2022年度入学生》

### I. 教養科目・外国語科目

授業科目		単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
初 年 次 教 育	学修基礎 a	1		1	2				L1KC101	卒業に要する単位数 教養科目の必修科目から14単位、 選択科目から16単位以上、第一外 国語12単位、第二外国語科目から4 単位以上、専門教育科目から82単 位以上、合計128単位以上を修得し なければならない。なお、年間の 履修科目の登録の上限は原則48単 位以内とする。	
	学修基礎 b	1		1		2			L1KC102		
	コンピュータ基礎演習 I	2		1	2				L1KC201		
	コンピュータ基礎演習 II	2		1			2		L1KC202		
教 養 科 目	一 般 教 養	哲学 I		2	1	2				L1KC301	教職必修 (中学 社会)
		哲学 II		2	1			2		L1KC302	教職必修 (中学 社会)
		法学 I		2	1	2				L1KC303	
		法学 II (日本国憲法)		2	1			2		L1KC304	教職必修
		経済学 I		2	1	2				L1KC305	
		経済学 II		2	1			2		L1KC306	
		社会学 I		2	1	2				L1KC307	教職必修 (中学 社会)
		社会学 II		2	1			2		L1KC308	教職必修 (中学 社会)
		民俗学 I		2	1	2				L1KC309	
		民俗学 II		2	1			2		L1KC310	
		自然科学概論 I		2	1	2				L1KC311	
		自然科学概論 II		2	1			2		L1KC312	
		健康科学		2	1			2		L1KC701	
		スポーツ科学		2	1	2				L1KC702	教職必修
		金沢まち学 I a		1	1	2				L1KC501	
		金沢まち学 I b		1	1		2			L1KC502	
		金沢まち学 II		2	1			2		L1KC503	
		コンピュータ活用演習 I		2	2	2				L1KB203	
		コンピュータ活用演習 II		2	2			2		L1KB204	
		キ ャ リ ア 教 育	FSP講座		2	1	2				L1KC401
キャリアデザイン I	2			1			2		L1KC402		
キャリアデザイン II	2			2	2				L1KB403		
キャリアデザイン III	2			2			2		L1KB404		
キャリアプランニング I	2			3	2				L1KB405		
キャリアプランニング II			2	3			2		L1KB406		
就業体験 (インターンシップ等)			1	1-4					L1KB407		
地域貢献 I (ボランティア等)			1	1-4					L1KC408		
地域貢献 II (ボランティア等)		1	1-4					L1KC409			
計		14	43								

授業科目		単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備 考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
外国語科目	第一外国語	基礎英語 I	2		1	2			L1WEC11	卒業に要する単位数 第一外国語12単位、第二外国語科目から4単位以上を修得しなければならない。
		基礎英語 II	2		1		2		L1WEC12	
		English Communication I	2		1	2			L1WCC11	
		English Communication II	2		1		2		L1WCC12	
		英語プレゼンテーション初級 I	2		1・2	2			L1WCC13	
		英語プレゼンテーション初級 II	2		1・2		2		L1WCC14	
	第二外国語	ドイツ語 I		2	1	2			L1DEC41	
		ドイツ語 II		2	1		2		L1DEC42	
		フランス語 I		2	1	2			L1FOC51	
		フランス語 II		2	1		2		L1FOC52	
		中国語 I		2	1	2			L1CNC21	
		中国語 II		2	1		2		L1CNC22	
		朝鮮語 I		2	1	2			L1KRC31	
		朝鮮語 II		2	1		2		L1KRC32	
計		12	16							
教養・外国語科目合計		26	59							

II. 専門教育科目

	授業科目	単位数			配当年次	週時数				科目ナンバ	備考
		必修	選択	自由		前期		後期			
						Q1	Q2	Q3	Q4		
必修	日本文学専攻	日本文学入門	2			1	2			L1SJC11	卒業に要する単位数 専門教育科目から82単位以上を修得しなければならない。 ただし、専門教育科目において各専攻毎に定める必修科目または選択必修科目を修得しなければならない。
		日本文学概説Ⅰ a	1			1	2			L1SJC12	
		日本文学概説Ⅰ b	1			1		2		L1SJC13	
		日本文学概説Ⅱ a	1			1			2	L1SJC14	
		日本文学概説Ⅱ b	1			1			2	L1SJC15	
		日本語学概説Ⅰ	2			1	2			L1SJC16	
		日本語学概説Ⅱ	2			1			2	L1SJC17	
		日本文学史Ⅰ	2			2	2			L1SJB18	
		日本文学史Ⅱ	2			2			2	L1SJB19	
	英米文学専攻	英語学概論Ⅰ	2			1	2			L1SEC11	日本文学専攻 専門必修科目14単位、学科共通専門必修科目12単位を含め、82単位以上を修得する。 英米文学専攻 専門必修科目16単位、学科共通専門必修科目12単位を含め、82単位以上を修得する
		英米文学概論Ⅰ	2			1	2			L1SEC12	
		English Presentation (Intermediate) I	2			2	2			L1SEB13	
		English Presentation (Intermediate) II	2			2			2	L1SEB14	
		World Culture through English I	2			2	2			L1SEB15	
		World Culture through English II	2			2			2	L1SEB16	
		Advanced English I	2			2	2			L1SEB17	
		Advanced English II	2			2			2	L1SEB18	
		心理学専攻	心理学概論A	2			1	2			
心理学概論B	2				1	2			L1SPC12		
心理学統計法Ⅰ	2				1	2			L1SPC13		
心理学統計法Ⅱ	2				1			2	L1SPC14		
選択必修	歴史学専攻	日本史概説Ⅰ		2		1	2			L1SHC21	教職必修 (中学 社会・高校 地歴)
		日本史概説Ⅱ		2		1			2	L1SHC22	教職必修 (中学 社会・高校 地歴)
		西洋史概説Ⅰ		2		1	2			L1SHC23	教職必修 (中学 社会・高校 地歴)
		西洋史概説Ⅱ		2		1			2	L1SHC24	教職必修 (中学 社会・高校 地歴)
		東洋史概説Ⅰ		2		1	2			L1SHC25	教職必修 (中学 社会・高校 地歴)
		東洋史概説Ⅱ		2		1			2	L1SHC26	教職必修 (中学 社会・高校 地歴)
		考古学概説Ⅰ		2		1	2			L1SHC27	
		考古学概説Ⅱ		2		1			2	L1SHC28	
選択	日本文学専攻	日本語表現法Ⅰ		2		1	2			L1SJC31	教職必修 (中・高 国語)
		日本語表現法Ⅱ		2		1			2	L1SJC32	教職必修 (中・高 国語)
		現代文章論		2		1			2	L1SJC33	
		漢文学講読Ⅰ		2		2	2			L1SJB34	教職必修 (中・高 国語)
		漢文学講読Ⅱ		2		2			2	L1SJB35	教職必修 (中・高 国語)
		古典文学講読Ⅰ		2		2	2			L1SJB36	
		古典文学講読Ⅱ		2		2			2	L1SJB37	
		近・現代文学講読A		2		2	2			L1SJB38	
		近・現代文学講読B		2		2			2	L1SJB39	
		評論の読み方		2		2			2	L1SJB40	
		日本語教育学Ⅰ		2		2	2			L1SJB41	
		日本語教育学Ⅱ		2		2			2	L1SJB42	
		地域と文学 a		1		2	2			L1SJB43	
		地域と文学 b		1		2		2		L1SJB44	
		現代文章実践		2		2	2			L1SJB45	
		書道 (書写実習)		2		3	2		2	L1SJB46	教職必修 (中学 国語)
		古典文学演習		4		3	2		2	L1SJA47	
近・現代文学演習 A		4		3	2		2	L1SJA48			
近・現代文学演習 B		4		3	2		2	L1SJA49			
近・現代文学演習 C		4		3	2		2	L1SJA50			
日本語学演習		4		3	2		2	L1SJA51			
日本語教授法		2		3	2			L1SJA52			
日本語教育実習		1		3			2	L1SJA53			

	授業科目	単位数			配当年次	週時数				科目 ナンバー	備 考	
		必修	選択	自由		前期		後期				
						Q1	Q2	Q3	Q4			
専 門 科 目	日 本 文 学 専 攻	古典文学特殊講義		2		3			2	L1SJA54		
		近・現代文学特殊講義A		2		3	2			L1SJA55		
		近・現代文学特殊講義B		2		3			2	L1SJA56		
		日本語学特殊講義		2		3	2			L1SJA57		
		社会言語学Ⅰ		2		2	2			L1SJB58		
		社会言語学Ⅱ		2		2			2	L1SJB59		
		日本語史概説Ⅰ		2		2	2			L1SJB60		
		日本語史概説Ⅱ		2		2			2	L1SJB61		
		創作入門		2		3	2			L1SJB62		
		創作実践		2		3			2	L1SJB63		
		日本語文法Ⅰ		2		3	2			L1SJB64		
		日本語文法Ⅱ		2		3			2	L1SJB65		
		新聞学講義		2		3	2			L1SJA66		
		総合日本文学		2		4	2			L1SJA67		
		島清恋愛文学講座Ⅰ		2		1			2	L1SJC68		
		島清恋愛文学講座Ⅱ		2		2			2	L1SJC69		
		島清恋愛文学講座Ⅲ		2		3			2	L1SJC70		
		国語科教育法Ⅰ		4		2	2		2	L1SJB71		教職必修(中学 国語)
		国語科教育法Ⅱ		4		3	2		2	L1SJB72		教職必修(中・高 国語)
		英 米 文 学 専 攻	英語学概論Ⅱ		2		1			2		L1SEC31
	英米文学概論Ⅱ			2		1			2	L1SEC32		
	資格英語Ⅰ			2		1			2	L1SEC33		
	資格英語Ⅱ			2		2	2			L1SEB34		
	資格英語Ⅲ			2		2			2	L1SEB35		
	言語習得研究Ⅰ			2		2	2			L1SEB36		
	言語習得研究Ⅱ			2		2			2	L1SEB37		
	英語文法論Ⅰ			2		2	2			L1SEB38		
	英語文法論Ⅱ			2		2			2	L1SEB39		
	英語学講読Ⅰ			2		2	2			L1SEB40		
	英語学講読Ⅱ			2		2			2	L1SEB41		
	英米文学講読Ⅰ			2		2	2			L1SEB42		
	英米文学講読Ⅱ			2		2			2	L1SEB43		
	英語音声学			2		2	2			L1SEB44		
	英米文化論Ⅰ			2		2	2			L1SEB45	教職必修(中・高 英語)	
	英米文化論Ⅱ			2		2			2	L1SEB46	教職必修(中・高 英語)	
	英米文学研究法			2		2	2			L1SEB47		
	Japanese Culture Through English			2		2			2	L1SEC48		
	English Writing			2		3	2			L1SEB49		
	Academic Writing			2		3			2	L1SEA50		
	English DiscussionⅠ			2		3	2			L1SEA51		
	English DiscussionⅡ			2		3			2	L1SEA52		
	原典講読Ⅰ			2		3	2			L1SEA53		
	原典講読Ⅱ			2		3			2	L1SEA54		
	英語学演習			4		3	2		2	L1SEA55		
	言語学演習			4		3	2		2	L1SEA56		
	第二言語習得演習		4		3	2		2	L1SEA57			
英米文学演習		4		3	2		2	L1SEA58				
海外留学		4		2-4	2		2	L1SEB59				
英語科教育法Ⅰ		4		2	2		2	L1SEB60	教職必修(中学 英語)			
英語科教育法Ⅱ		4		3	2		2	L1SEB61	教職必修(中・高 英語)			



授業科目			単位数			配当年次	週時数				科目 ナンバー	備 考
			必修	選択	自由		前期		後期			
							Q1	Q2	Q3	Q4		
専 門 科 目	選 択	心 理 学 専 攻	対人関係の心理学	2		3			2		L1SPB39	
			発達心理学演習Ⅰ	2		3	2			L1SPA40		
			発達心理学演習Ⅱ	2		3			2		L1SPA41	
			臨床心理学概論	2		1			2		L1SPC42	
			心理学的支援法	2		2	2				L1SPB43	
			健康・医療心理学	2		2			2		L1SPB44	
			臨床心理学演習Ⅰ	2		3	2				L1SPA45	
			臨床心理学演習Ⅱ	2		3			2		L1SPA46	
			社会・集団・家族心理学	2		2	2				L1SPB47	
			産業・組織心理学	2		3	2				L1SPB48	
			社会心理学演習Ⅰ	2		3	2				L1SPA49	
			社会心理学演習Ⅱ	2		3			2		L1SPA50	
			心理学文献講読	2		2			2		L1SPB51	
			心理学研究法ⅠA	2		2	2				L1SPB52	
			心理学研究法ⅠB	2		2	2				L1SPB53	
			心理学研究法Ⅱ	2		3	2				L1SPA54	
			心理学実験ⅠA	2		2			2		L1SPB55	
			心理学実験ⅠB	2		2			2		L1SPB56	
			心理学実験Ⅱ	2		3			2		L1SPA57	
			心理演習	2		3	2				L1SPB58	
			心理的アセスメント	2		3			2		L1SPB59	
	福祉心理学	2		2	2				L1SPB60			
	教育・学校心理学	2		2			2		L1SPB61			
	障害者・障害児心理学	2		3	2				L1SPB62			
	司法・犯罪心理学	2		4	2				L1SPB63			
	人体の構造と機能及び疾病	2		2	2				L1SPB64			
	精神疾患とその治療	2		3			2		L1SPB65			
	関係行政論	1		2			2		L1SPA66			
	公認心理師の職責	1		3	2				L1SPA67			
	心理実習	2		4			2		L1SPA68			
	学 科 共 通	地域実践研究Ⅰ		2	2	2			L1SXC11			
		地域実践研究Ⅱ		2	2			2	L1SXC12			
		海外演習A		2	1-4				L1SXB13			
海外演習B			2	1-4				L1SXB14				
プレ卒業研究演習		4		3	2		2	L1SXA15				
卒業研究		8		4	2		2	L1SXA16				
専門教育科目計			50	357	2							
合計			76	416	2							

## (2) 教育学部規程 別表第1 教育学部教育課程表(教育学科)

《2022年度入学生》

### I. 教養科目・専門科目

授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考	
	必修	選択		前期		後期				
				Q1	Q2	Q3	Q4			
教職入門Ⅰ	1		1	2			K1KC101	卒業要件となる科目の履修上限は、原則年間48単位とする。  卒業に要する単位数 教養科目から必修14単位、専門科目から必修30単位を含む128単位以上を修得しなければならない。		
教職入門Ⅱ	1		1			2	K1KC102			
教職入門Ⅲ	1		2	2			K1KC103			
教職入門Ⅳ	1		2			2	K1KC104			
コンピュータ基礎演習	2		1	2			K1KC201			
日本国憲法	2		1			2	K1KC301			
哲学		2	1			2	K1KC302			
社会学		2	1			2	K1KC303			
地理学		2	2			2	K1KC304			
体育理論	1		1	1			K1KC701			
体育実技	1		2			2	K1KC702			
英語Ⅰ	2		1	2			K1KC601			
英語Ⅱ	2		1			2	K1KC602			
教養科目計	14	6								
専門科目	教職基幹科目	教職論	2		1	2			K1STC11	なお、上記必修科目のほか、各コースで卒業に必要な単位について別に定める。
		教育原理	2		1			2	K1STC12	
		教育心理学	2		1			2	K1STC13	
		教育経営概論	2		2	2			K1STC14	
		教育課程論	2		2	2			K1STC15	
		教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）	2		2			2	K1STC16	
	小学校・中学校教諭専門科目	道徳教育の指導法		2	3			2	K1SCB11	
		特別活動の理論と実践		2	3			2	K1SCB12	
		総合的な学習の時間の指導法		2	3			2	K1SCB13	
		生徒・進路指導論		2	3	2			K1SCB14	
		初等教科教育法（国語）		2	2			2	K1SCA15	
		初等教科教育法（社会）		2	2	2			K1SCA16	
		初等教科教育法（算数）		2	2			2	K1SCA17	
		初等教科教育法（理科）		2	3	2			K1SCA18	
		初等教科教育法（生活）		2	3	2			K1SCA19	
		初等教科教育法（音楽）		2	2	2			K1SCA20	
		初等教科教育法（図画工作）		2	3	2			K1SCA21	
		初等教科教育法（家庭）		2	3			2	K1SCA22	
		初等教科教育法（体育）		2	3			2	K1SCA23	
		初等教科教育法（英語）		2	3			2	K1SCA24	
		英語科教育法Ⅰ		4	2	2		2	K1SCA25	
	英語科教育法Ⅱ		4	3	2		2	K1SCA26		

	授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
専門科目	幼稚園教諭・保育士専門科目		2	1			2		K1SBC11	
			2	2	2				K1SBB12	
			2	3			2		K1SBB13	
			2	1	2				K1SBB14	
			2	2			2		K1SBB15	
			2	1	2				K1SBC16	
			2	2	2				K1SBB17	
			2	3			2		K1SBB18	
			1	2			2		K1SBB19	
			2	3	2				K1SBB20	
			1	4	2				K1SBB21	
			2	3			2		K1SBB22	
			2	3			2		K1SBB23	
			1	1	2				K1SBC24	
			2	2	2				K1SBB25	
			2	2			2		K1SBB26	
			2	2			2		K1SBB27	
			2	2	2				K1SBB28	
			2	2			2		K1SBB29	
			1	2			2		K1SBB30	
			1	3	2				K1SBB31	
			1	3	2				K1SBB32	
			1	2			2		K1SBB33	
			1	3	2				K1SBB34	
			2	2	2				K1SBB35	
			2	1			2		K1SBB36	
			1	2			2		K1SBA37	
		1	3	2				K1SBB38		
		1	2			2		K1SBB39		
		1	2			2		K1SBB40		
		1	3	2				K1SBB41		
		1	3	2				K1SBB42		
	教科専門科目	国語（書写含む）		2	2	2			K1SKC11	
		社会		2	1			1	K1SKC12	
		算数		2	1	2			K1SKC13	
		理科		2	2			2	K1SKC14	
		生活		2	2	2			K1SKC15	
		音楽基礎		2	1	2			K1SKC16	
		図画工作		2	1			2	K1SKC17	
体育Ⅰ			2	1	2			K1SKC18		
体育Ⅱ（リズムダンス）			1	1			2	K1SKC19		

授業科目		単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
専門科目	家庭		2	2	2				K1SKC20		
	小学校英語		2	2			2		K1SKB21		
	英語専門科目	英語学概論		2	1	2				K1SEC11	
		英語文法論		2	1			2		K1SEB12	
		英語文法演習		2	3	2				K1SEB13	
		英米文学概論		2	2	2				K1SEB14	
		英米文学史		2	2	2				K1SEB15	
		英米文学講読		2	3	2				K1SEB16	
		英米文学演習		2	4			2		K1SEA17	
		言語習得研究		2	4	2				K1SEA18	
		英語表現Ⅰ		2	3	2				K1SEB19	
		英語表現Ⅱ		2	3			2		K1SEB20	
		English Writing		2	3			2		K1SEB21	
	グローバル人材の育成	国際理解教育概論	2		1	2				K1SGC11	
		多文化理解概論		2	3	2				K1SGC12	
		文化比較論		2	1			2		K1SGC13	
		地球市民論	2		3			2		K1SGC14	
		グローバル対話論	2		2			2		K1SGB15	
		生物多様性概説		2	3	2				K1SGB16	
		海外英語教材比較研究		2	3	2				K1SGB17	
		小学校英語教育概論		2	2			2		K1SGB18	
		英語プレゼンテーション		2	3			2		K1SGB19	
		英語コミュニケーションⅠ		2	2	2				K1SGB20	
		英語コミュニケーションⅡ		2	2			2		K1SGB21	
	多文化共生社会と保育		2	4	2				K1SGB22		
	新課題対応力の育成	ICT活用教育概論	2		1			2		K1SIB11	
		デジタル教材開発		2	3			2		K1SIB12	
		ICT活用とインクルーシブ教育		2	3	2				K1SIB13	
		「チーム学校」と学校組織マネジメント	2		1			2		K1SIB14	
		地域協働と学校の役割		2	3	2				K1SIB15	
スクールソーシャルワーク論			2	3			2		K1SIB16		
特別支援教育総論		2		2	2				K1SIB17		
教育相談			2	1			2		K1SIB18		
障がい児保育			2	3	2				K1SIB19		
障がい児教育		2	2			2		K1SIB20			
実習関連科目	学校インターンシップ		2	1			2		K1SSB11		
	保育インターンシップ		2	1			2		K1SSB12		
	保育実習Ⅰ（保育所）		2	3	2		2		K1SSB13		
	保育実習Ⅰ（施設）		2	3	2		2		K1SSB14		
	保育実習Ⅱ		2	3	2		2		K1SSA15		
	保育実習Ⅲ		2	4	2		2		K1SSA16		

授業科目		単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
専門科目	実習関連科目	保育実習指導Ⅰ		2	3	2		2		K1SSB17	
		保育実習指導Ⅱ		1	3	2		2		K1SSB18	
		保育実習指導Ⅲ		1	4	2		2		K1SSB19	
		教育実習Ⅰ(幼)		2	3			2		K1SSB20	
		教育実習Ⅱ(幼)		2	4	2				K1SSA21	
		教育実習指導Ⅰ(幼)		1	3	2				K1SSB22	
		教育実習指導Ⅱ(幼)		1	4	2				K1SSB23	
		教育実習(幼・小)		4	4	4				K1SSB24	
		教育実習指導(幼・小)		1	4	2				K1SSB25	
		教育実習(小・中)		4	4	4				K1SSB26	
		教育実習A		2	4	2		2		K1SSB27	
		教育実習指導(小・中)		1	4	2				K1SSB28	
		保育・教職実践演習(幼)		2	4			2		K1SSA29	
		教職実践演習(幼・小・中)		2	4			2		K1SSA30	
	セミナー・卒業研究	教育学基礎セミナーⅠ	1		3	2				K1SXB11	
教育学基礎セミナーⅡ		1		3			2		K1SXB12		
教育学セミナーⅠ		1		4	2				K1SXA13		
教育学セミナーⅡ		1		4			2		K1SXA14		
卒業研究		2		4	2		2		K1SXA15		
専門科目計		30	199								
合計		44	205								

(2) 経済学部規程 別表第1 経済学部教育課程表(経済学科)

《2022年度入学生》

I. 教養科目

(経済学科)		授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目ナンバー	備 考
			必修	選択		前期		後期			
						Q1	Q2	Q3	Q4		
教養科目	修学基礎科目	学修基礎 I a	1		1	2				E1KC101	
		学修基礎 I b	1		1		2			E1KC102	
		学修基礎 II a	1		2	2				E1KC103	
		学修基礎 II b	1		2		2			E1KC104	
		コンピュータ基礎演習 I a		1	1	2				E1KC201	教職必修
		コンピュータ基礎演習 I b		1	1		2			E1KC202	教職必修
	人文・社会・自然科学科目	哲学 I		2	1	2				E1KC301	教職必修(高校 公民)
		哲学 II		2	1			2		E1KC302	
		哲学と倫理		2	2	2				E1KC303	教職必修(高校 公民)
		社会学 I		2	1	2				E1KC304	教職必修(高校 公民)
		社会学 II		2	1			2		E1KC305	
		西洋史概説 I		2	1	2				E1KC306	
		西洋史概説 II		2	1			2		E1KC307	卒業に要する単位数
		日本史概説 I		2	1	2				E1KC308	教養科目の必修科目から16
		日本史概説 II		2	1			2		E1KC309	単位、教養科目の選択科目
		東洋史概説 I		2	2	2				E1KC310	から16単位以上修得しな
		東洋史概説 II		2	2			2		E1KC311	ければならない。
		人文地理学概説 I		2	2	2				E1KC312	
		人文地理学概説 II		2	2			2		E1KC313	
		地誌		2	2			2		E1KC314	
		法学(日本国憲法)		2	1			2		E1KC315	教職必修
		心理学の基礎		2	1	2				E1KC316	教職必修(高校 公民)
		経済学概論		2	1	2				E1KC317	
		一般数学		2	1	2				E1KC318	
		自然科学概論 I		2	1	2				E1KC319	
		自然科学概論 II		2	1			2		E1KC320	
	自然地理学概説 I		2	1	2				E1KC321		
	自然地理学概説 II		2	1			2		E1KC322		
	語学科目	英語 I	2		1	2				E1KC601	教職必修
		英語 II	2		1			2		E1KC602	教職必修
		英語コミュニケーション I		2	2	2				E1KC603	
		英語コミュニケーション II		2	2			2		E1KC604	
		総合英語 I		2	2	2				E1KC605	
		総合英語 II		2	2			2		E1KC606	
	スポーツ科学科目	スポーツ科学		2	1	2				E1KC701	教職必修
	キャリア科目	FSP講座		2	1	2				E1KC401	
		キャリアデザイン I	2		1			2		E1KC402	
		キャリアデザイン II	2		2	2				E1KC403	
		キャリアデザイン III	2		2			2		E1KC404	
		キャリアプランニング I	2		3	2				E1KC405	
		キャリアプランニング II		2	3				2	E1KC406	
		就業体験(インターシップ等)		1						E1KC407	
ボランティア体験			1						E1KC408		
教養科目計			16	62							

## Ⅱ. 専門科目

(経済学科)		授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目ナンバー	備 考	
			必修	選択		前期		後期				
						Q1	Q2	Q3	Q4			
専門必修科目	基礎科目	現代経済論Ⅰ	2		1	2				E1SEC11	教職必修(高校 公民) 教職必修(高校 公民)	
		ミクロ経済学Ⅰ	2		2	2				E1SEC12		
		マクロ経済学Ⅰ	2		2	2				E1SEC13		
専門必修科目	展開科目	基礎演習Ⅰ	2		3	2				E1SZB11		
		基礎演習Ⅱ	2		3		2			E1SZB12		
		演習Ⅰ	2		4	2				E1SZA13		
		演習Ⅱ	2		4		2			E1SZA14		
専門科目	専門選択科目	基礎科目	経営学基礎Ⅰ		2	1	2			E1SMC11	卒業に要する単位数 専門科目の必修科目から14 単位、専門科目の選択科目 から82単位を修得しなければ ならない。  なお、年間の履修科目の登録 の上限は原則48単位とする。	
			経営学基礎Ⅱ		2	1		2		E1SMC12		
			会計学基礎Ⅰ		2	1	2			E1SAC11		
			会計学基礎Ⅱ		2	1		2		E1SAC12		
			実践簿記Ⅰ		4	1	4			E1SAC13		
			実践簿記Ⅱ		8	1		8		E1SAC14		
			情報マネジメント基礎		2	1		2		E1SIC11		
			経済数学		2	1		2		E1SEC14		
			現代経済論Ⅱ		2	1		2		E1SEC15		
			コンピュータ基礎演習Ⅱa		1	1		2		E1SIC12		
			コンピュータ基礎演習Ⅱb		1	1		2		E1SIC13		
			統計基礎		2	1		2		E1SEC16		
			持続可能な発展論		2	1		2		E1SEC17		
			まちづくり論		2	2	2			E1SEC18		
			観光と経済		2	2		2		E1SEC19		
			社会保障論		2	2	2			E1SEC20		
			経済学史		2	2		2		E1SEC21		
			経済データ分析Ⅰ		2	2	2			E1SEC22		
			経済データ分析Ⅱ		2	2		2		E1SEC23		
			計量経済学Ⅰ		2	2	2			E1SEC24		
			計量経済学Ⅱ		2	2		2		E1SEC25		
			原価計算Ⅰ		2	2	2			E1SAC15		
			原価計算Ⅱ		2	2		2		E1SAC16		
			財務会計		2	2	2			E1SAC17		
			商業簿記Ⅰ		2	2	2			E1SAC18		
			商業簿記Ⅱ		2	2		2		E1SAC19		
			政治学概論		2	2	2			E1SPC11		教職必修(高校 公民)
			税法基礎		2	2		2		E1SJC11		
			日本経済史		2	2	2			E1SEC26		
			世界経済史		2	2		2		E1SEC27		
			法律学概論		2	2	2			E1SJC12		教職必修(高校 公民)
			マーケティング論Ⅰ		2	2	2			E1SMC13		
			マーケティング論Ⅱ		2	2		2		E1SMC14		
			マクロ経済学Ⅱ		2	2		2		E1SEC28		
ミクロ経済学Ⅱ		2	2		2		E1SEC29					
経営管理論Ⅰ		2	2	2			E1SMC15					
経営管理論Ⅱ		2	2		2		E1SMC16					
ビジネス英語Ⅰ		2	3	2			E1SMC17					
ビジネス英語Ⅱ		2	3		2		E1SMC18					

Ⅱ. 専門科目

(経済学科)		単位数		配当年次	週時数				科目ナンバー	備 考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
専門科目	展開科目	簿記論Ⅰ	8	1			8		E1SAB20	教職必修(高校 公民)
		簿記論Ⅱ	8	2	8				E1SAB21	
		財務諸表論Ⅰ	8	1			8		E1SAB22	
		財務諸表論Ⅱ	8	2	8				E1SAB23	
		公共経済学	2	2			2		E1SEB30	
		公共政策論	2	2			2		E1SEB31	
		民法Ⅰ	2	2	2				E1SJB13	
		民法Ⅱ	2	2			2		E1SJB14	
		労働経済学	2	2			2		E1SEB32	
		デジタル経済	2	2			2		E1SEB33	
		金融論Ⅰ	2	3	2				E1SEB34	
		金融論Ⅱ	2	3			2		E1SEB35	
		金融データ分析	2	3			2		E1SEB36	
		経営組織論	2	3	2				E1SMB19	
		経済政策論	2	3	2				E1SEB37	
		産業組織論	2	3	2				E1SEB38	
		計量社会科学Ⅰ	2	3	2				E1SEB39	
		計量社会科学Ⅱ	2	3			2		E1SEB40	
		ゲーム理論	2	3	2				E1SEB41	
		社会政策論	2	3	2				E1SEB42	
		公益事業論	2	3			2		E1SEB43	
		国際経済	2	3			2		E1SEB44	
		財政学Ⅰ	2	3	2				E1SEB45	
		財政学Ⅱ	2	3			2		E1SEB46	
		社会データ分析	2	3	2				E1SEB47	
		商法Ⅰ	2	3	2				E1SJB15	
		商法Ⅱ	2	3			2		E1SJB16	
		人的資源管理	2	3			2		E1SMB20	
		政治学	2	3			2		E1SPB12	
		税法	2	3	2				E1SJB17	
		地域金融を考えるa	1	3			2		E1SEB48	
		地域金融を考えるb	1	3			2		E1SEB49	
		地域経済論	2	3	2				E1SEB50	
		観光経済論	2	3			2		E1SEB51	
		地域振興論	2	3	2				E1SEB52	
		都市と文化	2	3			2		E1SEB53	
		ビジネス・ケーススタディa	1	3			2		E1SMB21	
		ビジネス・ケーススタディb	1	3			2		E1SMB22	
		ビジネス戦略	2	3	2				E1SMB23	
		医療政策論	2	3			2		E1SEB54	
		北陸経済産業論a	1	4	2				E1SEB55	
		北陸経済産業論b	1	4		2			E1SEB56	
		コーポレートファイナンスⅠ	2	4	2				E1SAB24	
		コーポレートファイナンスⅡ	2	4			2		E1SAB25	
		マーケティング・リサーチ	2	4	2				E1SMB24	
流通論Ⅰ	2	4	2				E1SMB25			
流通論Ⅱ	2	4			2		E1SMB26			
公民科教育法	4	3	2	2			E1SEB57	教職必修(高校 公民)		
専門科目計		14	200							
合 計		30	262	卒業に要する単位数 128単位以上						

(3) 経済学部規程 別表第2 経済学部教育課程表(経営学科)

≪2022年度入学生≫

I. 教養科目

(経営学科)		単位数		配当年次	週時数				科目ナンバー	備考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
教養科目	修学基礎科目	学修基礎Ⅰa	1		1	2			E2KC101	教職必修 教職必修
		学修基礎Ⅰb	1		1		2		E2KC102	
		学修基礎Ⅱa	1		2	2			E2KC103	
		学修基礎Ⅱb	1		2		2		E2KC104	
		コンピュータ基礎演習Ⅰa		1	1	2			E2KC201	
		コンピュータ基礎演習Ⅰb		1	1		2		E2KC202	
	人文・社会・自然科学科目	哲学Ⅰ		2	1	2			E2KC301	教職必修(高校 商業) 教職必修
		哲学Ⅱ		2	1			2	E2KC302	
		社会学Ⅰ		2	1	2			E2KC303	
		社会学Ⅱ		2	1			2	E2KC304	
		法学(日本国憲法)		2	1			2	E2KC305	
		心理学の基礎		2	1	2			E2KC306	
		経済学概論		2	1	2			E2KC307	
		一般数学		2	1	2			E2KC308	
		自然科学概論Ⅰ		2	1	2			E2KC309	
		自然科学概論Ⅱ		2	1			2	E2KC310	
	語学科目	英語Ⅰ	2		1	2			E2KC601	教職必修 教職必修
		英語Ⅱ	2		1			2	E2KC602	
		英語コミュニケーションⅠ		2	2	2			E2KC603	
		英語コミュニケーションⅡ		2	2			2	E2KC604	
		総合英語Ⅰ		2	2	2			E2KC605	
		総合英語Ⅱ		2	2			2	E2KC606	
	スポーツ科学科目	スポーツ科学		2	1	2			E2KC701	教職必修
	キャリア科目	FSP講座		2	1	2			E2KC401	卒業に要する単位数 教養科目の必修科目から16 単位、教養科目の選択科目 から16単位以上修得しなけ ればならない。
		キャリアデザインⅠ	2		1			2	E2KC402	
		キャリアデザインⅡ	2		2	2			E2KC403	
		キャリアデザインⅢ	2		2			2	E2KC404	
		キャリアプランニングⅠ	2		3	2			E2KC405	
		キャリアプランニングⅡ		2	3			2	E2KC406	
		就業体験(インターシップ等)		1	1				E2KC407	
ボランティア体験		1	1				E2KC408			
教養科目計		16	38							

II. 専門科目

(経営学科)			単位数		配 当 年 次	週時数				科目ナンバー	備 考	
			必 修	選 択		前期		後期				
						Q1	Q2	Q3	Q4			
専門 必修 科目	基 礎 科	経営学基礎 I	2		1	2			E2SMC11	教職必修(高校 商業)		
		会計学基礎 I	2		1	2			E2SAC11	教職必修(高校 商業)		
		現代経済論 I	2		1	2			E2SEC11			
	展 開 科 目	基礎演習 I	2		3	2			E2SZB11			
		基礎演習 II	2		3		2		E2SZB12			
		演習 I	2		4	2			E2SZA13			
		演習 II	2		4			2	E2SZA14			
専門 科目	専門 選択 科目	基 礎 科 目	プログラミング基礎a		1	1	2			E2SIC11	教職必修(高校 商業)	
			プログラミング基礎b		1	1		2		E2SIC12	教職必修(高校 商業)	
			経営学基礎 II		2	1			2	E2SMC12		
			会計学基礎 II		2	1			2	E2SAC12		
			実践簿記 I		4	1	4			E2SAC13		
			実践簿記 II		8	1			8	E2SAC14		
			情報マネジメント基礎 I		2	1			2	E2SIC13		
			現代経済論 II		2	1			2	E2SEC12		
			コンピュータ基礎演習 II a		1	1			1	E2SIC14		
			コンピュータ基礎演習 II b		1	1				1	E2SIC15	
			統計基礎		2	1			2	E2SEC13		
			持続可能な発展論		2	1			2	E2SEC14		
			経営管理論 I		2	2	2			E2SMC13	教職必修(高校 商業)	
			経営管理論 II		2	2			2	E2SMC14		
		マーケティング論 I		2	2	2			E2SMC15	教職必修(高校 商業)		
		マーケティング論 II		2	2			2	E2SMC16	教職必修(高校 商業)		
		ミクロ経済学 I		2	2	2			E2SEC15			
		マクロ経済学 I		2	2	2			E2SEC16			
		日本経済史		2	2	2			E2SEC17			
		世界経済史		2	2			2	E2SEC18			
		まちづくり論		2	2	2			E2SEC19			
		財務会計 I		2	2	2			E2SAC15	教職必修(高校 商業)		
		商業簿記 I		2	2	2			E2SAC16			
		商業簿記 II		2	2			2	E2SAC17			
		原価計算 I		2	2	2			E2SAC18	教職必修(高校 商業)		
		原価計算 II		2	2			2	E2SAC19			
		税法基礎		2	2			2	E2SJC11			
		税務会計 I		2	3			2	E2SAC20			
ビジネス英語 I		2	3	2			E2SMC17					
ビジネス英語 II		2	3			2	E2SMC18					



(2) 経済情報学部規程 別表第1 経済情報学部教育課程表(経済情報学科)

《2022年度入学生》

I. 教養科目

	授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
教養科目	学修基礎 I a	1		1	2				I1KC101	○卒業に要する単位数 教養科目は、必修科目から16単位、教養科目の選択科目から16単位以上修得しなければならない。	
	学修基礎 I b	1		1	2				I1KC102		
	学修基礎 II a	1		2	2				I1KC103		
	学修基礎 II b	1		2	2				I1KC104		
	コンピュータ基礎演習 I a		1	1	2				I1KC201		教職必修(高校 情報)
	コンピュータ基礎演習 I b		1	1		2			I1KC202		教職必修(高校 情報)
	小計	4	2								
	人文・社会・自然科学科目	哲学 I		2	1	2				I1KC301	教職必修(高校 情報)
	哲学 II		2	1			2			I1KC302	
	社会学 I		2	1	2					I1KC303	
	社会学 II		2	1			2			I1KC304	
	法学(日本国憲法)		2	1			2			I1KC305	
	心理学の基礎		2	1	2					I1KC306	
	経済学概論		2	1	2					I1KC307	
	一般数学		2	1	2					I1KC308	
	自然科学概論 I		2	1	2					I1KC309	
	自然科学概論 II		2	1			2			I1KC310	
	自然地理学概説 I		2	1	2					I1KB311	
	自然地理学概説 II		2	1			2			I1KB312	
	小計			24							
	語学科目	英語 I	2		1	2				I1KC601	教職必修(高校 情報)
	英語 II	2		1			2			I1KC602	教職必修(高校 情報)
	総合英語 I		2	2	2					I1KB603	
	総合英語 II		2	2			2			I1KB604	
	英語コミュニケーション I		2	2	2					I1KB605	
	英語コミュニケーション II		2	2			2			I1KB606	
	小計	4	8								
	スポーツ科目	スポーツ科学		2	1	2				I1KC701	教職必修(高校 情報)
	小計			2							
	キャリア科目	F S P 講座		2	1	2				I1KC401	
	キャリアデザイン I	2		1			2			I1KC402	
	キャリアデザイン II	2		2	2					I1KB403	
	キャリアデザイン III	2		2			2			I1KB404	
キャリアプランニング I	2		3	2					I1KB405		
キャリアプランニング II		2	3			2			I1KB406		
就業体験(インターンシップ等)		1							I1KC407		
ボランティア体験		1							I1KC408		
小計	8	6									

Ⅱ. 専門科目

授業科目		単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
専門必修科目	基礎科目	現代経済論Ⅰ	2		1	2			I1SFC11	教職必修(高校 情報)	
		経営学基礎Ⅰ	2		1	2			I1SFC12		
		情報科学Ⅰ	2		1	2			I1SFC13		
	展開科目		基礎演習Ⅰ	2		3	2				I1SIA11
			基礎演習Ⅱ	2		3		2			I1SIA12
			演習Ⅰ	2		4	2				I1SIA13
			演習Ⅱ	2		4		2			I1SIA14
小計		14									
専門科目	基礎科目	コンピュータ基礎演習Ⅱa		1	1			2		I1SFC14	○卒業に要する単位数 専門科目の必修単位から14単位、専門科目の選択科目から82単位を修得しなければならない。  なお、年間の履修科目の登録の上限は原則48単位とする。
		コンピュータ基礎演習Ⅱb		1	1				2	I1SFC15	
		情報科学Ⅱ		2	1			2		I1SFC16	
		経済数学		2	1			2		I1SFC17	
		統計基礎		2	1			2		I1SFC18	
		現代経済論Ⅱ		2	1			2		I1SFC19	
		経営学基礎Ⅱ		2	1			2		I1SFC20	
		情報技術基礎Ⅰ		2	1	2				I1SFC21	
		情報技術基礎Ⅱ		2	1			2		I1SFC22	
		情報技術Ⅰ		2	2	2				I1SFB23	
		情報技術Ⅱ		2	2			2		I1SFB24	
		情報マネジメント基礎Ⅰ		2	1			2		I1SFC25	
		情報マネジメント基礎Ⅱ		2	2	2				I1SFB26	
		プログラミング基礎a		1	1	2				I1SFC27	
		プログラミング基礎b		1	1		2			I1SFC28	
		プログラミングⅠa		1	1			2		I1SFC29	
		プログラミングⅠb		1	1				2	I1SFC30	
	プログラミングⅡa		1	2	2				I1SFB31		
	プログラミングⅡb		1	2		2			I1SFB32		
	経営科学Ⅰ		2	2	2				I1SFB33		
	経営科学Ⅱ		2	2			2		I1SFB34		
	アルゴリズムとデータ構造		2	2			2		I1SFB35		
	経営管理論Ⅰ		2	2	2				I1SFB36		
	経営管理論Ⅱ		2	2			2		I1SFB37		
	情報サービスマネジメントとシステム監査		2	2			2		I1SFB38		
	マーケティング論Ⅰ		2	2	2				I1SFB39		
	マーケティング論Ⅱ		2	2			2		I1SFB40		
	マイクロ経済学Ⅰ		2	2	2				I1SFB41		
	マクロ経済学Ⅰ		2	2	2				I1SFB42		
	計量経済学Ⅰ		2	2	2				I1SFB43		
	経済情報学Ⅰ		2	2	2				I1SFB44		
	データベースⅠ		2	3	2				I1SFB45		
	情報サービス論		2	2			2		I1SFB46		
	情報サービス演習Ⅰ		2	3	2				I1SFB47		
情報社会論		2	3	2				I1SFB48			
情報倫理		2	2	2				I1SFB49			
情報と職業		2	2			2		I1SFB50			

専 門 科 目	展 開 科 目	授業科目	単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナン バー	備考		
			必修	選択		前期		後期					
						Q1	Q2	Q3	Q4				
		ビジネス英語Ⅰ		2	3	2				I1SFB51			
		ビジネス英語Ⅱ		2	3			2		I1SFB52			
		プログラミングⅢa		1	2			2		I1SIA15			
		プログラミングⅢb		1	2				2	I1SIA16			
		プログラミングⅣa		1	3	2				I1SIA17			
		プログラミングⅣb		1	3		2			I1SIA18			
		ミクロ経済学Ⅱ		2	2			2		I1SIA19			
		マクロ経済学Ⅱ		2	2			2		I1SIA20			
		計量経済学Ⅱ		2	2			2		I1SIA21			
		経済情報学Ⅱ		2	2			2		I1SIA22			
		公共経済学		2	2			2		I1SIA23			
		労働経済学		2	2			2		I1SIA24			
		マルチメディア表現と技術Ⅰ		2	2	2				I1SIA25	教職必修(高校 情報)		
		マルチメディア表現と技術Ⅱ		2	2			2		I1SIA26			
		機械学習Ⅰ		2	3	2				I1SIA27			
		機械学習Ⅱ		2	3			2		I1SIA28			
		ゲーム理論		2	3	2				I1SIA29			
		ITプロジェクトマネジメントⅠ		2	3	2				I1SIA30			
		ITプロジェクトマネジメントⅡ		2	3			2		I1SIA31			
		消費者行動論		2	3	2				I1SIA32			
		経営組織論		2	3	2				I1SIA33			
		ビジネス戦略		2	3	2				I1SIA34			
		組織行動論		2	3			2		I1SIA35			
		人的資源管理		2	3			2		I1SIA36			
		ビジネス・ケーススタディa		1	3			2		I1SIA37			
		ビジネス・ケーススタディb		1	3				2	I1SIA38			
		社会データ分析		2	3	2				I1SIA39			
		金融データ分析		2	3			2		I1SIA40			
		計量社会科学Ⅰ		2	3	2				I1SIA41			
		計量社会科学Ⅱ		2	3			2		I1SIA42			
		金融論Ⅰ		2	3	2				I1SIA43			
		金融論Ⅱ		2	3			2		I1SIA44			
		国際経済		2	3			2		I1SIA45			
		データベースⅡ		2	3			2		I1SIA46			
		財政学		2	3	2				I1SIA47			
		経済政策論		2	3	2				I1SIA48			
		情報サービス演習Ⅱ		2	3			2		I1SIA49			
		情報科教育法		4	3	2		2		I1SIA50	教職必修(高校 情報)		
		流通論Ⅰ		2	4	2				I1SIA51			
		流通論Ⅱ		2	4			2		I1SIA52			
		マーケティング・リサーチ		2	4	2				I1SIA53			
		情報通信ネットワークⅠ		2	3	2				I1SIA54	教職必修(高校 情報)		
		情報通信ネットワークⅡ		2	3			2		I1SIA55			
		ネットワークと情報セキュリティ		2	3			2		I1SIA56			
		ネットワーク科学と経済Ⅰa		1	4	2				I1SIA57			
		ネットワーク科学と経済Ⅰb		1	4		2			I1SIA58			
		ネットワーク科学と経済Ⅱa		1	4			2		I1SIA59			
		ネットワーク科学と経済Ⅱb		1	4				2	I1SIA60			
		小計	14	154									
		合計	30	196	卒業に要する単位数 128単位以上								

## (2) 芸術学部規程 別表第1 芸術学部教育課程表(芸術学科)

《2022年度入学生》

### I. 教養科目

授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考
	必修	選択		前期		後期			
				Q1	Q2	Q3	Q4		
学修基礎Ⅰ	1		1	2			A1KC101	卒業に要する単位数は128単位以上 教養科目は、一般教養科目の必修科目 から15単位、選択科目から5単位以上 の計20単位以上、語学の必修科目から、 4単位、選択科目から4単位以上の 計8単位以上修得しなければならない。 い。	
学修基礎Ⅱ	1		1		2		A1KC102		
キャリアデザインⅠ	2		1			2	A1KC401		
キャリアデザインⅡ	2		2	2			A1KB402		
キャリアデザインⅢ	2		2			2	A1KB403		
スポーツ科学		2	1	2			A1KC701		
コンピュータ基礎演習Ⅰ	2		1	2			A1KC201		
コンピュータ基礎演習Ⅱ	2		1			2	A1KC202		
キャリアプランニングⅠ	1		3	2			A1KB404		
キャリアプランニングⅡ		1	3			2	A1KB405		
就業体験(インターシップ等)		1		1	1		A1KC406		
キャリアデザイン基礎		1	1	2			A1KC407		
金沢まち学a		1	1			2	A1KC501		
金沢まち学b		1	1			2	A1KC502		
金沢まち学特講a	1		1			2	A1KC503		
金沢まち学特講b	1		1			2	A1KC504		
地域課題研究		2	2			2	A1KB505		
経済学の基礎		2	1	2			A1KC301		
法学(日本国憲法)		2	1			2	A1KC302		
心理学の基礎		2	1	2			A1KC303		
知的所有権論a		1	3	2			A1KB304		
知的所有権論b		1	3		2		A1KB305		
社会学Ⅰ		2	1	2			A1KC306		
社会学Ⅱ		2	1			2	A1KC307		
哲学Ⅰ		2	1	2			A1KC308		
哲学Ⅱ		2	1			2	A1KC309		
小計	15	25							
語学	英語Ⅰ	2		1	2		A1WEC11		
	英語Ⅱ	2		1		2	A1WEC12		
	英語資格対策講座Ⅰ		2	2	2		A1WGB13		
	英語資格対策講座Ⅱ		2	2		2	A1WGB14		
	English PresentationⅠ		2	2	2		A1WCB15		
	English PresentationⅡ		2	2		2	A1WCB16		
	フランス語Ⅰ		2	2	2		A1FOC11		
	フランス語Ⅱ		2	2		2	A1FOC12		
	ドイツ語Ⅰ		2	2	2		A1DEC11		
	ドイツ語Ⅱ		2	2		2	A1DEC12		
	中国語Ⅰ		2	2	2		A1CNC11		
	中国語Ⅱ		2	2		2	A1CNC12		
	小計	4	20						
教養科目計	19	45							

## II. 専門科目

授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考
	必修	選択		前期		後期			
				Q1	Q2	Q3	Q4		
芸術表現基礎a	3		1	12				A1SCC11	専門科目は、必修科目から18単位、選択科目から82単位以上の計100単位以上修得しなければならない。なお、卒業要件となる科目の履修上限は原則年間48単位とする。
芸術表現基礎b	3		1		12			A1SCC12	
絵画工芸基礎a		2	1			8		A1SCC13	
絵画工芸基礎b		2	1				8	A1SCC14	
デッサン		2	2	4				A1SCB15	
人体と美術		2	2			2		A1SCB16	
美術概論		2	1			2		A1SCC17	
工芸史		2	1	2				A1SCC18	
工芸概論		2	1			2		A1SCC19	
日本美術史		2	1	2				A1SCC20	
東洋美術史		2	1			2		A1SCC21	
西洋美術史		2	2	2				A1SCC22	
日本美術特論a		1	1			2		A1SCB23	
日本美術特論b		1	1				2	A1SCB24	
東洋美術特論a		1	2	2				A1SCB25	
東洋美術特論b		1	2		2			A1SCB26	
西洋美術特論a		1	2			2		A1SCB27	
西洋美術特論b		1	2				2	A1SCB28	
美術文化交流史		2	2	2				A1SCB29	
近現代美術史a		1	3	2				A1SCB30	
近現代美術史b		1	3		2			A1SCB31	
文化芸術活用特論		2	2	2				A1SCB32	
美術材料学a		1	3			2		A1SCB33	
美術材料学b		1	3				2	A1SCB34	
図学		2	1			2		A1SCC35	
基礎造形論 I		2	1	2				A1SCC36	
基礎造形論 II		2	1			2		A1SCC37	
デザイン概論 I		2	1	2				A1SCC38	
デザイン概論 II		2	1			2		A1SCC39	
メディアデザイン論a		1	1	2				A1SCC40	
メディアデザイン論b		1	1		2			A1SCC41	
ジャーナリズム・ドキュメンタリー論a		1	2	2				A1SCB42	
ジャーナリズム・ドキュメンタリー論b		1	2		2			A1SCB43	
デザイン基礎		2	1			2		A1SCC44	
映像基礎a		1	1			2		A1SCC45	
映像基礎b		1	1				2	A1SCC46	
CG実習a		1	1			2		A1SCC47	
CG実習b		1	1				2	A1SCC48	
メディア基礎		2	1			2		A1SCC49	
ソフトウェア基礎論a		1	1			2		A1SCB50	
ソフトウェア基礎論b		1	1				2	A1SCB51	
マルチメディア論a		1	2	2				A1SCB52	
マルチメディア論b		1	2		2			A1SCB53	

専門  
共通  
科目

授業科目		単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナンバ ー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
専門 共通 科目	工学デザインa		1	2			2		A1SCB54		
	工学デザインb		1	2				2	A1SCB55		
	ウェブデザインⅠa		1	1			2		A1SCB56		
	ウェブデザインⅠb		1	1				2	A1SCB57		
	ウェブデザインⅡa		1	2	2				A1SCB58		
	ウェブデザインⅡb		1	2		2			A1SCB59		
	ウェブデザイン演習a		1	2			2		A1SCB60		
	ウェブデザイン演習b		1	2				2	A1SCB61		
	色彩学a		1	2	2				A1SCB62		
	色彩学b		1	2		2			A1SCB63		
	プレゼンテーション基礎a	1		2	2				A1SCC64		
	プレゼンテーション基礎b	1		2		2			A1SCC65		
	プレゼンテーション活用a	1		3			2		A1SCB66		
	プレゼンテーション活用b	1		3				2	A1SCB67		
	卒業制作・研究Ⅰ	4		3	2		2		A1SCA68		
	卒業制作・研究Ⅱ	4		4	2		2		A1SCA69		
小計		18	70								
専門 選択 科目	絵 画 分 野	絵画実習		2	1			4		A1SPC11	
		絵画Ⅰ		4	2	8				A1SPB12	
		絵画Ⅱ		4	2			8		A1SPB13	
		絵画Ⅲ		4	3	8				A1SPB14	
		絵画Ⅳ		4	3			8		A1SPB15	
		絵画表現法Ⅰa		1	2	4				A1SPB16	
		絵画表現法Ⅰb		1	2		4			A1SPB17	
		絵画表現法Ⅱa		1	2			4		A1SPB18	
		絵画表現法Ⅱb		1	2				4	A1SPB19	
		絵画表現法Ⅲa		1	3	4				A1SPB20	
		絵画表現法Ⅲb		1	3		4			A1SPB21	
		絵画表現法Ⅳa		1	3			4		A1SPB22	
		絵画表現法Ⅳb		1	3				4	A1SPB23	
	造 形 分 野	工芸実習		2	1			4		A1SZC11	
		工芸Ⅰ		4	2	8				A1SZB12	
		工芸Ⅱ		4	2			8		A1SZB13	
		工芸Ⅲ		4	3	8				A1SZB14	
		工芸Ⅳ		4	3			8		A1SZB15	
		美術科教育法Ⅰ		4	2	2		2		A1SZB16	
		美術科教育法Ⅱ		4	3	2		2		A1SZB17	
		工芸科教育法		4	3	2		2		A1SZB18	
		工芸表現法Ⅰa		1	2	4				A1SZB19	
		工芸表現法Ⅰb		1	2		4			A1SZB20	
		工芸表現法Ⅱa		1	2			4		A1SZB21	
		工芸表現法Ⅱb		1	2				4	A1SZB22	
		工芸表現法Ⅲa		1	3	4				A1SZB23	
工芸表現法Ⅲb		1	3		4			A1SZB24			
工芸表現法Ⅳa		1	3			4		A1SZB25			
工芸表現法Ⅳb		1	3				4	A1SZB26			

授業科目		単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナン バー	備考	
		必修	選択		前期		後期				
					Q1	Q2	Q3	Q4			
専門 選択 科目	造 形 分 野	彫刻基礎		2	2	2			A1SZB27		
		彫刻表現		2	2			2	A1SZB28		
		版画基礎		2	2	2			A1SZB29		
		版画表現		2	3	2			A1SZB30		
		複合表現演習Ⅰa		1	3	2				A1SZB31	
		複合表現演習Ⅰb		1	3		2			A1SZB32	
		複合表現演習Ⅱa		1	3			2		A1SZB33	
		複合表現演習Ⅱb		1	3				2	A1SZB34	
	デ ザ イ ン 分 野	視覚伝達論a		1	2	2				A1SDB11	
		視覚伝達論b		1	2		2			A1SDB12	
		マルチメディア演習a		2	2	4				A1SDB13	
		マルチメディア演習b		2	2		4			A1SDB14	
		ビジュアルデザインa		1	2			2		A1SDB15	
		ビジュアルデザインb		1	2				2	A1SDB16	
		デザイン演習Ⅰa		2	2	4				A1SDB17	
		デザイン演習Ⅰb		2	2		4			A1SDB18	
		デザイン演習Ⅱa		2	2			4		A1SDB19	
		デザイン演習Ⅱb		2	2				4	A1SDB20	
		広告メディア論		2	2				2	A1SDB21	
		デザイン演習Ⅲa		2	3	4				A1SDB22	
		デザイン演習Ⅲb		2	3		4			A1SDB23	
		デザインマネジメントⅠ		2	3	2				A1SDB24	
		DTPデザインa		1	3			2		A1SDB25	
		DTPデザインb		1	3				2	A1SDB26	
		生活デザインa		1	3			2		A1SDB27	
		生活デザインb		1	3				2	A1SDB28	
		デザインマネジメントⅡ		2	3				2	A1SDB29	
		メ デ イ ア 分 野	CG活用演習a		2	2	4				A1SMB11
	CG活用演習b			2	2		4			A1SMB12	
	サウンドメディア			2	2	2				A1SMB13	
	ゲームデザインa			2	2			4		A1SMB14	
	ゲームデザインb			2	2				4	A1SMB15	
	ウェブ活用演習Ⅰa			2	2	4				A1SMB16	
	ウェブ活用演習Ⅰb			2	2		4			A1SMB17	
	ウェブ活用演習Ⅱa			1	2			2		A1SMB18	
	ウェブ活用演習Ⅱb			1	2				2	A1SMB19	
	ウェブ応用演習Ⅰa			1	2	2				A1SMB20	
	ウェブ応用演習Ⅰb			1	2		2			A1SMB21	
	ウェブ応用演習Ⅱa			1	2			2		A1SMB22	
	ウェブ応用演習Ⅱb			1	2				2	A1SMB23	
	CG応用演習a			2	3	4				A1SMB24	
	CG応用演習b			2	3		4			A1SMB25	
	メディアコンテンツ制作論a			2	3			4		A1SMB26	
	メディアコンテンツ制作論b			2	3				4	A1SMB27	

授業科目		単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナンバ ー	備考		
		必修	選択		前期		後期					
					Q1	Q2	Q3	Q4				
専 門 選 択 科 目	映 像 分 野	映像制作Ⅰ		4	2		2		2	A1SVB11		
		映像表現		4	2		4				A1SVB12	
		映像論		2	2		2				A1SVB13	
		シナリオ論		2	2				2		A1SVB14	
		アニメーション演習Ⅰ（実写・クレイ）a		1	2				2		A1SVB15	
		アニメーション演習Ⅰ（実写・クレイ）b		1	2					2	A1SVB16	
		映像制作Ⅱ		4	3		2		2		A1SVB17	
		アニメーション演習Ⅱ（2DCG）a		1	3	2					A1SVB18	
		アニメーション演習Ⅱ（2DCG）b		1	3		2				A1SVB19	
		ポストプロダクションa		1	3	2					A1SVB20	
		ポストプロダクションb		1	3		2				A1SVB21	
		CM制作a		1	3	2					A1SVB22	
		CM制作b		1	3		2				A1SVB23	
		アニメーション演習Ⅲ（3DCG）a		1	3				2		A1SVB24	
		アニメーション演習Ⅲ（3DCG）b		1	3					2	A1SVB25	
		小計	0	160								
		専門科目計	18	230								
		合計	37	275								

## (2) スポーツ科学部規程 別表第1 スポーツ科学部教育課程表(スポーツ科学科)

《2022年度入学生》

### I. 教養科目

授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考
	必修	選択		前期		後期			
				Q1	Q2	Q3	Q4		
教養科目	学修基礎 I a	1		1	2			S1KC101	○卒業に要する単位数 教養科目は、必修14単位を含め20単位以上修得しなければならない。
	学修基礎 I b	1		1		2		S1KC102	
	学修基礎 II		1	1			2	S1KC103	
	学習基礎 III		1	2	2			S1KC104	
	学習基礎 IV		1	2			2	S1KC105	
	キャリアデザイン I	2		1			2	S1KC401	
	キャリアデザイン II	2		2	2			S1KC402	
	キャリアデザイン III	2		2			2	S1KC403	
	哲学 I		2	1	2			S1KC301	
	哲学 II		2	1			2	S1KC302	
	法学(日本国憲法)		2	1			2	S1KC303	
	心理学の基礎		2	2	2			S1KC304	
	経済学の基礎		2	1			2	S1KC305	
	生理学		2	2	2			S1KB306	
	倫理学		2	2			2	S1KC304	
	地域課題研究		2	1	2			S1KC501	
	FSP講座		2	1	2			S1KC404	
	スポーツ科学	2		1	2			S1KC701	
	コンピュータ基礎演習 I		2	1	2			S1KC201	
	コンピュータ基礎演習 II		2	1			2	S1KC202	
キャリアプランニング I	2		3	2			S1KC405		
キャリアプランニング II	2		3			2	S1KC406		
インターンシップ実習		1	1~4				S1KB407		
小計	14	26							

### II. 外国語科目

授業科目	単位数		配当年次	週時数				科目 ナンバー	備考
	必修	選択		前期		後期			
				Q1	Q2	Q3	Q4		
外国語科目	英語 I	2		1	2			S1WEC11	○卒業に要する単位数 必修4単位、選択の1外国語から I・II 4単位、合せて8単位以上修得しなければならない。
	英語 II	2		1			2	S1WEC12	
	英語コミュニケーション I		2	2	2			S1WCC11	
	英語コミュニケーション II		2	2			2	S1WCC12	
	中国語 I		2	2	2			S1CNC11	
	中国語 II		2	2			2	S1CNC12	
	朝鮮語 I		2	2	2			S1KRC11	
	朝鮮語 II		2	2			2	S1KRC12	
	小計	4	12						

### Ⅲ. 専門科目

授業科目		単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナン バー	備考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
専門 必修 科目	運動生理学	2		1	2				S1SRB11	○卒業に要する単位数  専門科目は、必修36単位、 選択必修スポーツ実技から6単 位以上を含めて、計100単位以 上修得しなければならない。  なお、卒業要件となる科目の 履修上限は、年間48単位以内 とする。
	健康科学	2		1	2				S1SRB12	
	スポーツ心理学	2		1			2		S1SRB13	
	トレーニング論	2		1			2		S1SRA14	
	機能的解剖学	2		1			2		S1SRB15	
	運動学	2		2	2				S1SRB16	
	スポーツ栄養学	2		2			2		S1SRB17	
	スポーツ経営管理	2		2			2		S1SRB18	
	運動発達・老化学	2		2	2				S1SRB19	
	体育原理	2		3	2				S1SRB20	
	体育史	2		3	2				S1SRB21	
	スポーツ医学(救急処置を含む。)	2		3	2				S1SRB22	
	スポーツ社会学	2		3	2				S1SRB23	
	スポーツ統計学	2		1	2				S1SRB24	
	専門演習Ⅰ	4		3	2		2		S1SRB25	
	専門演習Ⅱ	4		4	2		2		S1SRB26	
	小計	36	0							
	専門 選択 必修 スポ ーツ 実技 科目	スポーツ実技Ⅰ(水泳)		1	2	2				S1SPB11
		スポーツ実技Ⅱ(体づくり・ニュースポーツ)		1	1			2		S1SPB12
		スポーツ実技Ⅲ(陸上)		1	2	2				S1SPB13
		スポーツ実技Ⅳ(テニス・バドミントン)		1	2			2		S1SPB14
		スポーツ実技Ⅴ(バレーボール)		1	3	2				S1SPB15
		スポーツ実技Ⅵ(ダンス)		1	3	2				S1SPB16
		スポーツ実技Ⅶ(器械体操・トランポリン)		1	3			2		S1SPB17
		スポーツ実技Ⅷ(柔道・剣道)		1	3			2		S1SPC18
		スポーツ実技Ⅸ(ソフトボール)		1	2	2				S1SPB19
スポーツ実技Ⅹ(野外スポーツ)			1	2			2		S1SPB20	
スポーツ実技Ⅺ(卓球)			1	1			2		S1SPB21	
スポーツ実技Ⅻ(ラグビーⅠ)			1	1	2				S1SPB22	
スポーツ実技ⅩⅢ(ラグビーⅡ)			1	2		2			S1SPB23	
スポーツ実技ⅩⅣ(サッカーⅠ)			1	1	2				S1SPB24	
スポーツ実技ⅩⅤ(サッカーⅡ)			1	2		2			S1SPB25	
スポーツ実技ⅩⅥ(バスケットボール)			1	1			2		S1SPB26	
スポーツ実技ⅩⅦ(野球)			1	3	2				S1SPB27	
スポーツ実技ⅩⅧ(マリンスポーツ)			1	1	2				S1SPB28	
スポーツ実技ⅩⅨ(スノースポーツ)			1	1			2		S1SPB29	
小計	0	19								

### Ⅲ. 専門科目

	授業科目	単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナン バー	備考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
専 門 科 目	地域とスポーツ		2	2			2		S1SEB11	
	スポーツメディア論		2	2			2		S1SEB12	
	スポーツマーケティング		2	2	2				S1SEA13	
	スポーツ文化論		2	3			2		S1SEB14	
	スポーツ法学		2	3			2		S1SEB15	
	スポーツファイナンス		2	3			2		S1SEA16	
	スポーツ政策論		2	3			2		S1SEB17	
	生命倫理		2	3			2		S1SEB18	
	プレゼンテーション演習		2	2	2				S1SEC19	
	情報活用演習		4	2	2		2		S1SEB20	
	海外文献講読		2	2	2				S1SEB21	
	海外研修(スポーツ事情)		2	2	2				S1SEB22	
	スポーツ測定評価		2	1			2		S1SEA23	
	運動処方		2	1			2		S1SEB24	
	スポーツコンディショニング論		2	2	2				S1SEC25	
	スポーツコンディショニング演習Ⅰ		1	2			2		S1SEB26	
	スポーツコンディショニング演習Ⅱ		1	3	2				S1SEB27	
	コーチング論		2	3	2				S1SEB28	
	コーチング演習Ⅰ		1	3			2		S1SEB29	
	コーチング演習Ⅱ		1	4	2				S1SEB30	
	メンタルトレーニング論		2	3	2				S1SEB31	
	スポーツ技術・戦術論		2	3	2				S1SEB32	
	武道論		2	1	2				S1SEB33	
	武道演習Ⅰ		1	1			2		S1SEB34	
	武道演習Ⅱ		1	2	2				S1SEB35	
	球技論		2	1	2				S1SEB36	
	球技演習Ⅰ		1	1			2		S1SEB37	
	球技演習Ⅱ		1	2	2				S1SEB38	
	スポーツ競技の心理		2	3			2		S1SEB39	
	スポーツイベント企画運営		2	3	2				S1SEB40	
	スポーツボランティア論		2	4	2				S1SEB41	
	スポーツボランティア演習		2	4	2				S1SEB42	
競技者育成システム		2	4	2				S1SEB43		
生涯スポーツ論		2	1	2				S1SEB44		

### Ⅲ. 専門科目

授業科目		単位数		配 当 年 次	週時数				科目 ナン バー	備考
		必修	選択		前期		後期			
					Q1	Q2	Q3	Q4		
専 門 選 択 科 目	スポーツビジネス概論		2	1	2				S1SEB45	
	生活習慣病概論		2	1	2				S1SEB46	
	運動生化学		2	2	2				S1SEB47	
	衛生・公衆衛生学		2	2			2		S1SEB48	
	学校保健		2	2			2		S1SEB49	
	病理学		2	3			2		S1SEB50	
	スポーツトレーナー演習		2	2	2				S1SEB51	
	レクリエーション論		2	2	2				S1SEB52	
	公務員と法		2	3			2		S1SEB53	
	体カトレーニング実習		1	3	2				S1SEB54	
	資格柔道		1	3			2		S1SEB55	
	健康管理演習		2	3	2				S1SEB56	
	健康産業施設現場研修		2	3	2				S1SEB57	
	健康運動演習		2	4	2				S1SEB58	
	スポーツ技術指導演習		2	3	2				S1SEB59	
	サッカー指導演習		2	1	2		2		S1SEB60	
	スポーツ集団の形成と社会		2	1			2		S1SEB61	
	スポーツ心理学演習		2	2	2				S1SEB62	
	オリンピックへの挑戦と指導		2	1			2		S1SEB63	
	保健体育科教育法Ⅰ		4	2	2		2		S1SEB64	
保健体育科教育法Ⅱ		4	3	2		2		S1SEB65		
小計		0	106							
合計		54	163							

## (2) 栄養学部規定 別表第1 栄養学部教育課程表(栄養学科)

《2022年度入学生》

### I. 教養科目

授業科目		単位数		配当年次				週時数				科目 ナンバー	備考		
		必修	選択	1年	2年	3年	4年	前期		後期					
								Q1	Q2	Q3	Q4				
教養科目	学修基礎	学修基礎Ⅰ (プレゼミⅠ)	2		2				2				N1KC101	卒業に要する単位数 教養科目は、必修科目12単位及び自然科学分野から4単位以上を含め20単位以上修得しなければならない。	
		学修基礎Ⅱ (プレゼミⅡ)	2		2					2			N1KC102		
		学修基礎Ⅲ	2			2			2				N1KC103		
		学修基礎Ⅳ	2			2				2			N1KC104		
	人文・社会科学		心理学の基礎		2	2						2			N1KC301
			法学(日本国憲法)		2	2						2			N1KC302
			経済学の基礎		2		2			2					N1KC303
			哲学Ⅰ		2			2		2					N1KC304
			哲学Ⅱ		2			2				2			N1KC305
		スポーツ科学	2		2				2				N1KC701		
	キャリア		コンピュータ基礎演習Ⅰ		2	2				2					N1KC401
			コンピュータ基礎演習Ⅱ		2	2						2			N1KC402
			就業体験(インターンシップ)		1	1							1		N1KC403
			就職基礎講座		1			2		2					N1KC404
			就職対策講座		1			2				2			N1KC405
	自然科学		生物学基礎		2	2			2						N1KC306
			化学基礎		2	2				2					N1KC307
			数学基礎		2		2		2						N1KC308
			生理学基礎		2		2				2				N1KC309
地域連携		地域課題研究Ⅰ		2		2		2					N1KC310		
		地域課題研究Ⅱ		2		2					2		N1KC311		
教養科目合計		12	27												

### II. 外国語科目

授業科目		単位数		配当年次				週時数				科目 ナンバー	備考	
		必修	選択	1年	2年	3年	4年	前期		後期				
								Q1	Q2	Q3	Q4			
外国語科目		英語Ⅰ	2		2				2				N1WEC11	卒業に要する単位数 必修4単位を含め8単位以上修得しなければならない。
		英語Ⅱ	2		2					2			N1WEC12	
		英語コミュニケーションⅠ		2		2			2				N1WCC11	
		英語コミュニケーションⅡ		2		2					2		N1WCC12	
		中国語Ⅰ		2		2			2				N1CNC21	
		中国語Ⅱ		2		2					2		N1CNC22	
		朝鮮語Ⅰ		2		2			2				N1CNC23	
		朝鮮語Ⅱ		2		2					2		N1CNC24	
外国語科目合計		4	12											

### Ⅲ. 専門科目

	授業科目	単位数		配当年次				週時数				科目 ナンバー	栄 養 必	管 理 必	備考	
		必 修	選 択	1 年	2 年	3 年	4 年	前期		後期						
								Q1	Q2	Q3	Q4					
専門基礎科目	社会・環境と健康	保健統計学	2	2				2				N1SEB11		○	卒業に要する単位数 専門基礎科目から必修科目38単位、専門科目から必修科目33単位を含め、100単位以上修得しなければならない。 卒業条件となる科目の履修上限単位は、原則年間48単位とする。	
		保健統計学実習	1	1				3				N1SEB12		○		
		健康管理概論	2	2					2			N1SEB13	○	○		
		公衆衛生学	2		2			2				N1SEB14	○	○		
		社会福祉概論	2			2		2				N1SEB15	○	○		
		食生活論	2			2			2			N1SEB16	○	○		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち		解剖生理学	2	2				2				N1SBB11	○		○
			解剖生理学実験	1	1					3			N1SBB12	○		○
			病態生理学Ⅰ	2	2					2			N1SBB13	○		○
			病態生理学Ⅱ	2		2			2				N1SBB14	○		○
			病態生理学Ⅲ		2	2				2			N1SBB15			○
			運動生理学	2			2			2			N1SBB16	○		○
			生化学Ⅰ	2		2			2				N1SBB17	○		○
			生化学Ⅱ		2	2				2			N1SBB18			○
			生化学実験	1			1			3			N1SBB19	○		○
			食べ物と健康	食品学Ⅰ	2	2				2			N1SHB11	○		○
			食品学Ⅱ	2	2					2		N1SHB12	○	○		
			食品学実験	1	1					3		N1SHB13	○	○		
			食品機能論		2		2		2			N1SHB14		○		
			食品加工学		2		2		2			N1SHB15		○		
			食品加工学実習		1		1			3		N1SHB16		○		
			食品微生物学	2	2				2			N1SHB17	○	○		
			食品衛生学	2	2					2		N1SHB18	○	○		
			食品衛生学実験	1		1			3			N1SHB19	○	○		
			調理学	2	2				2			N1SHB20	○	○		
		献立作成演習	2	2					2		N1SHB21	○	○			
		調理学実習Ⅰ(調理科学実験含む)	1	1				3			N1SHB22	○	○			
		調理学実習Ⅱ	1	1					3		N1SHB23	○	○			
		調理学実習Ⅲ	1		1			3			N1SHB24	○	○			
		調理学実習Ⅳ	1		1				3		N1SHB25	○	○			
専門基礎科目合計		38	12													
専門科目	基礎栄養学	基礎栄養学	2	2					2			N1STB11	○	○		
		基礎栄養科学実験	1		1				3			N1STB12	○	○		
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2	2						2		N1SAB11	○	○		
		応用栄養学Ⅱ	2		2				2			N1SAB12	○	○		
		応用栄養学実習	1			1				3		N1SAB13	○	○		
		応用栄養学演習		2			2			2		N1SAA14		○		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2						2		N1SKB11	○	○		
		栄養教育論Ⅱ	2		2				2			N1SKA12		○		
		栄養教育論実習Ⅰ	1			1				3		N1SKB13	○	○		
		栄養教育論実習Ⅱ		1			1		3			N1SKA14		○		
栄養情報処理演習		2					2	2			N1SKA15	○	○			

授業科目		単位数		配当年次				週時数				科目 ナンバー	栄養 必	管理 必	備考
		必修	選択	1 年	2 年	3 年	4 年	前期		後期					
								Q1	Q2	Q3	Q4				
専門科目	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2		2					2	N1SCB11	○	○		
		臨床栄養学Ⅱ		2		2			2		N1SCB12		○		
		栄養アセスメント	2			2			2		N1SCA13	○	○		
		臨床栄養学実習	1			1				3	N1SCB14	○	○		
		臨床栄養実践演習		2			2		2		N1SCA15		○		
	公衆栄養学	公衆栄養学	2		2				2		N1SPB11	○	○		
		地域栄養演習		2		2			2		N1SPA12		○		
		公衆栄養活動論		1		2				2	N1SPA13		○		
		公衆栄養学実習		1		1				3	N1SPA14		○		
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2		2				2		N1SLB11	○	○		
		給食経営管理論Ⅱ		2		2				2	N1SLA12		○		
		給食経営管理基礎実習	1		1					3	N1SLB13	○	○		
		給食経営管理応用実習		1		1			3		N1SLA14		○		
	臨地実習	校外実習(給食の運営)	1		1 <sup>※1</sup>				3		N1SRB11	○	○		※1 配当年次は3年 ※2 配当年次は4年 } いずれか1科目 選択必修
		臨地実習Ⅰ(臨床栄養)		2		2 <sup>※2</sup>			6		N1SRA12		○		
		臨地実習Ⅱ(給食経営管理)		1						3	N1SRA13		○		
		臨地実習Ⅲ(公衆栄養)		1			1		3		N1SRA14		○		
	総合演習	総合演習		1			1		2		N1SGA11		○		※3 配当年次は2年
		臨地実習事前・事後指導Ⅰ	1		1 <sup>※3</sup>					2	N1SGB12	○	○		
	栄養教諭 <sup>※4</sup>	学校栄養教育法		2		2			2		N1SSB11		○		※4 栄養に係わる教育に 関する科目
食に関する指導法			2		2				2	N1SSB12		○			
卒業研究	卒業研究Ⅰ	3				3		3		N1SXA11					
	卒業研究Ⅱ	3				3			3	N1SXA12					
専門科目合計		33	23												
関連科目	健康栄養学概論	2		2				2		N1SFC11			臨地実習Ⅰ～Ⅲと合わせて 履修すること ※5 配当年次は3年		
	生物有機化学	2		2				2		N1SFB12					
	北陸の食文化	2	2					2		N1SFC13					
	レポート・プレゼンテーション演習	2	2						2	N1SFC14					
	微生物学	2	2					2		N1SFB15					
	微生物学実験	1	1						3	N1SFB16					
	食品栄養化学実験	1		1				3		N1SFB17					
	運動生理学実習	1			1				3	N1SFB18					
	栄養薬理学	2			2				2	N1SFB19					
	臨地実習事前・事後指導Ⅱ	1			1 <sup>※5</sup>				2	N1SFA20		★			
	石川の食	2			2				2	N1SFC21					
	専門英語	2				2		2		N1SFC22					
	スポーツ栄養学	2				2			2	N1SFB23					
	実践栄養学特論Ⅰ	2				2		2		N1SFA24					
	実践栄養学特論Ⅱ	2				2			2	N1SFA25					
自由科目	食料経済	2			2			2					} 卒業要件には含ま れない		
	フードスペシャリスト論	2			2			2							
	フードコーディネーター論	2			2			2							
関連科目・自由科目合計		4	28												
合計		75	63												

## ○金沢学院大学全学教務委員会規程

制 定 平成 12 年 4 月 1 日

最終改正 平成 18 年 11 月 17 日

### (趣旨)

第 1 条 この規程は、大学が行う教務関係事項を円滑に運営するために置く、全学教務委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

### (任務)

第 2 条 委員会は、大学各学部が行う教務的事項について、相互に関連する教育・研究上の必要な事項を調査・審議し、必要に応じて教学審議会の議に付する。

2 委員会が必要と認めた場合、小委員会等を置くことができる。

3 小委員会等については、別に定める。

### (構成)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 委員長 1 名

(2) 各学部教務委員長及び基礎教育機構教務委員長

(3) 各学部及び基礎教育機構から選出された教員各 1 名

(4) 第 4 条第 2 項に定める委員

### (委員の任命・委嘱)

第 4 条 前条第 1 号の委員長は、大学長が、教学審議会の構成員の中から指名する。また前条第 3 号の委員は、各学部の教務委員長が推薦し、学長が任命する。

2 併設の短期大学長の了承を経て、大学長が、短期大学教学部長及び教務委員長を委員として委嘱する。

### (委員の任期)

第 5 条 委員長及び第 3 条第 3 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

2 欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (会議)

6条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名した者がその職務を代行する。

3 委員会が必要と認めたときは、第3条各号に掲げる者以外の教職員の出席を求めて、意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

(事務)

第8条 委員会の事務は、学務部教務課で処理する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日に遡及し施行する。

附 則

この規程は、平成18年11月17日から施行する。

## ○大学自己点検・評価委員会規程

施行 平成 17 年 3 月 1 日

最終改正 平成 25 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学校法人金沢学院大学評価委員会規程第 6 条第 2 項の定めに基づき、大学が自ら行う自己点検評価を実施するために置く、大学自己点検・評価委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定めるものである。

(構成)

第 2 条 大学の自己点検評価のために、大学各学部長及び基礎教育機構長が推薦する委員により委員会を組織する。なお、推薦の委員は、予め学長の承認を得るものとする。

2 委員会に委員長を置き、学長が任命する。

3 委員会の構成は、各学部及び基礎教育機構の各委員 2 名による計 8 名とし、この他に職員から 1 名を幹事として置く。

(任期)

第 3 条 前条の委員長、委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(委員以外の者の出席)

第 4 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聞くことができる。

(自己点検・評価項目・様式)

第 5 条 自己点検・評価の項目は、つぎの各号に関する事項を基準に具体的な項目及び様式を委員会で定め、大学評価委員会の承認を得るものとする。

(1) 教育研究上の基本となる組織に関すること

(2) 教員組織に関すること

(3) 教育課程に関すること

(4) 施設及び設備に関すること

(5) 事務組織に関すること

(6) 財務に関すること

(7) (1)～(6)のほか、教育研究活動等に関すること

(実施方法)

第6条 自己点検・評価を円滑に行うため、委員会は、具体的な実施方針を策定し、各学部及び基礎教育機構に小委員会を置き、実務を行う。

(結果の報告)

第7条 前条の小委員会は活動内容を報告書にまとめ委員会に提出する。

2 委員会は、前項の報告書および第5条に関する事項を取りまとめ、一部報告する場合には速やかに、全学的な報告とする場合には3～5年の間に1回以上、報告書を作成し大学評価委員会に報告する。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務部企画課が主管して行う。

附 則

この規程は、平成17年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

# 数理・データサイエンス・AI教育プログラム取組概要

## 【プログラムの目指す学修成果】

社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解できる。

## 【プログラム内容】

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラムに対応した科目の受講を通して、数理・データサイエンス・AIに基づく社会の変化、情報セキュリティ、データを扱うための基礎的な数理表現、情報抽出方法等について学ぶ。

## 【修得事項】

- ① 社会におけるデータやAI利活用およびその留意事項等についての理解
- ② データを扱うために必要となる基本的な技術の理解
- ③ 基本的なデータの記述とデータからの情報抽出をする能力

## 【対象者】

大学の全学部生（令和4年度以降入学生）

## 【修了要件】(大学)

学部によって修了要件は相違します。所属する学部が指定する科目を履修し、2単位を取得すること（下表）

学部	開設授業科目（一年次後期開講）
文学部 芸術学部 スポーツ科学部 栄養学部	「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(2単位)
教育学部	「ICT活用教育概論」(2単位)
経済学部 経済情報学部	「コンピュータ基礎演習Ⅱa」(1単位) 「コンピュータ基礎演習Ⅱb」(1単位)

（令和5年度以降入学生を対象に上記全ての科目は必修化）

## プログラムの実施および改善体制

### 【授業方法・学修支援体制】

- ・ BYOD による対面授業を原則とする
- ・ 担当教員による細かな学修指導（メール、LMSでの質問機会確保）
- ・ 予習復習に取り組みやすい環境構築（LMSへの教材・練習問題等掲載）
- ・ Microsoft Office365アカウントの付与
- ・ 情報システム室によるBYOD用デバイスのトラブル対応



授業の実施  
科目担当教員



授業アンケート  
教務部



分析・検討  
全学教務委員会



点検・評価  
大学自己点検・  
評価委員会

